

June 2022

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

**PHIL
HAR
MONY**



感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを正しく常時着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 当日、チケット半券のもぎりは、係員の確認後、お客様ご自身でお願いいたします。ただし状況により係りがもぎる場合があります。
- プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- 政府や自治体によるイベント開催要件に変更があった場合は、チケット販売の一時停止や入場者数上限の設定等を行います。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会やプレゼントもお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。
- 喫茶コーナーは会場により、営業縮小もしくは休止している場合があります。
- 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
- クロークは休止しております。
- ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
- 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
- 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の入替えに努めます。
- スタッフもマスクの着用等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。また、業務の内容により、フェイスシールドやビニール手袋の着用をさせていただきます。
- 厚生労働省による新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)や自治体独自の通知アプリなどの活用を推奨いたします。

お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようご配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください

PHILHARMONY

CONTENTS
JUNE 2022

6

- 3 [公演プログラム] 池袋Aプログラム
11 [公演プログラム] Bプログラム
16 [公演プログラム] 池袋Cプログラム
21 [シリーズ] N響百年史 | 第29回 | 新交響楽団誕生! 片山杜秀

- 20 曲目解説執筆者 / Information
25 2022年9月定期公演の聴きどころ
——公演企画担当者から
27 2022-23定期公演プログラム
35 特別公演 / 各地の公演
40 特別支援・特別協力・賛助会員
44 NHK交響楽団メンバー
45 みなさまの声をお聞かせください!
46 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO
Members
- [Artist Profiles & Program Notes]
47 Ikebukuro Program A
51 Program B
54 Ikebukuro Program C
57 The Subscription Concerts Program 2022-23
60 役員等・団友

インターネットアンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは45ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援


With Special Support of

岩谷産業株式会社

Iwatani Corporation

 三菱地所株式会社

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

 みずほ銀行

Mizuho Bank, Ltd.

公益財団法人 渋谷育英会

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

PROGRAM

池袋

A

第1959回

東京芸術劇場

6/11 [土] 6:00pm

6/12 [日] 2:00pm

指揮	ステファヌ・ドゥネーヴ
メゾ・ソプラノ	ステファニー・ドゥストラック*
コンサートマスター	伊藤亮太郎

デュカス
バレエ音楽「ペリ」(ファンファーレつき)
[22']

ラヴェル
シェエラザード*[18']

- I アジア
- II 魔法の笛
- III つれない人

—— 休憩(20分) ——

ドビュッシー
牧神の午後への前奏曲 [10']

フロラン・シュミット
バレエ組曲「サロメの悲劇」作品50
[27']

- [第1部]
- I 前奏曲
- II 真珠の踊り
- [第2部]
- III 海の魅惑
- IV いなずまの踊り
- V 恐怖の踊り

後援：豊島区

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは45ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhksso.or.jp/enquete.html>

Artist Profiles

ステファヌ・ドゥネーヴ(指揮)



1971年、フランス生まれ。現在、セントルイス交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督を務める。パリ国立高等音楽院で指揮を学んだあと、パリ管弦楽団でゲオルク・ショルティ、パリ・オペラ座でジョルジュ・プレートル、サイトウ・キネン・フェスティバル(現セイジ・オザワ松本フェスティバル)で小澤征爾のアシスタントを務めて研鑽を積んだ。以後、ロイヤル・スコットランド・ナショナル管弦楽団音楽監督、シュトゥットガルト放送交響楽団首席指揮者、フィラデルフィア管弦楽団首席客演指揮者を経て現職に至る。ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団やバイエルン放送交響楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、クリヴランド管弦楽団ほか、世界の主要オーケストラにたびたび客演するほか、英国ロイヤル・オペラやパリ・オペラ座などオペラ分野でも活躍する。レパートリーの中心となるのは母国フランスの音楽。レコーディングでもラヴェル、ルーセル、ドビュッシー、オネゲル、フランク、プーランクらの作品をとりあげ、ディアパゾン・ドール賞を受賞するなど高く評価されている。

N響とは2015年に初共演。2019年に続いて今回が3度目の共演となる。池袋Aプログラムはフランスのバレエ音楽を中心に据え、池袋Cプログラムではプーランクにガーシュウインの《パリのアメリカ人》を組み合わせる。アメリカで活躍の場を広げるドゥネーヴにふさわしいプログラムだろう。

[飯尾洋一／音楽ジャーナリスト]

ステファニー・ドゥストラック(メゾ・ソプラノ)



フランスを代表するメゾ・ソプラノのひとり。色合いと情感豊かな声、深く濃い音色、むらのない響き、役柄への真摯な共感からくる圧倒的な演技力を兼ね備え、国際的な活躍を続けている。とりわけフランス語作品に関しては、バロック・オペラから近現代オペラ、歌曲まで幅広いレパートリーを誇る。2021年7月、新国立劇場でビゼー《カルメン》のタイトルロールを歌い、絶賛を博したのは記憶に新しい。

フランスのレンヌ生まれ。祖先には大作曲家プーランクがいる。子供時代は演劇のワークショップに通い、一方で児童合唱団に所属。10代半ばでオペラ歌手を志し、リヨン国立高等音楽院に学ぶ。バロック・オペラの大家ウィリアム・クリスティに抜擢され、バロック・オペラの公演に数多く参加。2010年にはリール歌劇場で《カルメン》のタイトルロールを歌って成功を収め、以後世界の歌劇場で歌っている。2012年にはグラインドボーン音楽祭で、大野和士の指揮のもとラヴェル《スペインの時》のヒロインを歌い、絶賛された。オーケストラとの共演も多く、リサイタルや小編成のアンサンブルでのコンサートにも積極的に取り組んでいる。

[加藤浩子／音楽評論家]

マラルメ、ディアギレフ、ストラヴィンスキー。本公演プログラムの背後には、19世紀から20世紀のフランス芸術を語る上で欠かせないキーパーソンの影が見え隠れする。この時代、彼らの存在がフランス音楽を「詩・舞踏・音楽」の融合（「音楽」の語源となった古代ギリシアのムーシケー）へと確実に導いた。オリエントの香りを漂わせる本日の4作品は、その共通のうねりの中から生まれたフランス管弦楽の結晶である。

デュカス

バレエ音楽「ペリ」（ファンファーレつき）

舞踏詩(Poème dansé)と記されたポール・デュカス(1865~1935)のバレエ作品《ペリ》は、キーウ生まれの女性ダンサー、ナターシャ・トゥルハノヴァのために書かれた。1911年にパリのシャトレ座で舞踏コンサートを始めたトゥルハノヴァのために、デュカスは交響詩の形で《ペリ》を作曲していたが、これがバレエ・リュス(ロシア・バレエ団)の1911年のプログラムに含まれることになる。しかし公演日のたびたびの延期やトゥルハノヴァに対するぞんざいな扱いなど、ディアギレフの態度に不信感を募らせたデュカスは、自身の演目を取り下げる。結果として《ペリ》は、1912年4月22日、シャトレ座のトゥルハノヴァによる舞踏コンサートのなかで、ラヴェルの《アダライド、または花言葉》(ピアノ曲《優雅で感傷的なワルツ》を管弦楽化したもの)と共に初演された。同じコンサートにおいてフロラン・シュミットの《サロメの悲劇》も上演されている。各作曲者が自らラムルー管弦楽団を指揮した。なお《ペリ》に先立つ金管楽器によるファンファーレは、静かに始まるバレエの開演に伴い、観客を静める目的で、初演の際に追加して作曲された。

物語はペルシャの伝説に基づく。老いを恐れて不死の花を探し求めるイस्कンデル王は、花の精ペリが眠っているときに、彼女が抱く蓮の花を奪う。ペリは舞を踊り、花を取り戻す。まばゆいペリが消えたことで自身の最期を悟ったイस्कンデル王は、闇に包まれていくを感じる。舞踏詩と題されているとおり、王とペリの抽象的な動きの美が、異国的な2つの主題旋律で表現される。はっきりとした舞踏(ダンス)は中間部に用意されている。

作曲年代	1910年(ファンファーレは1912年)
初演	1912年4月22日、パリ、シャトレ座、ラムルー管弦楽団、作曲家自身による指揮
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、シロフォン、小太鼓、トライアングル、タンブリン、シンバル、大太鼓、サスペンデッド・シンバル、ハーブ2、チェレスタ1、弦楽

シエラザード

モーリス・ラヴェル(1875~1937)の《シエラザード》には、1898年に作曲された序曲と、1903年に作曲された歌曲がある。1902年に、「アパッシユ」という分野を超えた芸術グループがパリに誕生し、ラヴェルはその中心メンバーであった。歌曲版は、同じアパッシユのメンバーである詩人トリストラン・クリングゾールの詩に作曲したものである。ロシア音楽を愛好し研究していたラヴェルにとって、リムスキー・コルサコフの《シエラザード》(1888)の影響は無視できないが、歌曲版では詩の自由なリズムの音楽化にあたり、より自然でリアルなオリエントの世界が開かれる。

第1曲〈アジア〉もっとも東洋的色彩が濃い。アジアとして具体的な国名を挙げ、それらの国々を「見てみたい(Je voudrais voir)」という言葉が繰り返し回帰する。

第2曲〈魔法の笛〉仕える主人が眠るなか、外から聞こえる恋人の笛の音に耳を傾ける官能的な夜を歌う。たゆたうようなフルートの旋律と、自由詩に従った歌唱の自然なリズムが絶妙なバランスで絡み合う。

第3曲〈つれない人〉異国の美青年に注がれる視線が描写される。

作曲年代	1903年
初演	1904年5月17日、パリ、新劇場(国民音楽協会コンサート)、ジャヌ・アトー独唱、アルフレッド・コルトー指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、タンブリン、小太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、タムタム、グロッケンシュピール、ハープ2、チェレスタ1、弦楽、メゾソプラノ・ソロ

ドビュッシー

牧神の午後への前奏曲

フルートの独創的な旋律とハープの幻想的な響きから始まる《牧神の午後への前奏曲》は、ステファヌ・マラルメの詩『半獣神の午後』から自由にインスピレーションを得て作曲された「詩の全般的な印象」である。詩は「牧歌(エグローク)」として牧神の独白という形態がとられている。クロード・ドビュッシー(1862~1918)による音楽は詩を忠実に移し替えるわけではないが、詩の行数と音楽の小節数が一致しており、朗読を前提としたマラルメの詩に寄り添っている。

牧神とは古代ギリシャ神話のパン、ローマ神話のフォーンであり、フルートの音色に象徴される牧神のもつ葦笛は、ニンフ(妖精)^{あしぶえ}が姿を変えたものである。暑い夏の午後にまどろむ牧神はニンフたちとの戯れを「これは夢だったのか」と夢想する。詩そのものに

多くの音楽的暗示と性的暗示があり、音楽では冒頭フルートの旋律が変奏、転調しながら何度も繰り返されることで全体の印象を決定づけるだけでなく、水の描写や鳥の羽ばたき、牧神の陶醉感さえも管弦楽で見事に表現される。1912年にはニジンスキーの振付で、バレエ・リュスがバレエ公演を行った。

作曲年代	1892～1894年
初演	1894年12月22日、パリ、国民音楽協会、ギュスターヴ・ドレ指揮
楽器編成	フルート3、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、アンティーク・シンバル、ハープ2、弦楽

フロラン・シュミット

バレエ組曲「サロメの悲劇」作品50

1907年、R. シュトラウスの《サロメ》パリ初演と同じ年の11月、パリのテアトル・デ・ザールでアメリカのモダンダンサー、ロイ・フラーによる黙劇として初演されたのが、フロラン・シュミット(1870～1958)の《サロメの悲劇》である。20の楽器のための付随音楽を、シュミットは1910年に大編成の交響詩(バレエ組曲)へと書き直し、ストラヴィンスキーに献呈した。この組曲版は1911年に初演後、1912年にデュカス《ペリ》の初演と同じ舞台で演じられ、1913年にはシャンゼリゼ劇場でバレエ・リュスが公演を行った。ストラヴィンスキーの《春の祭典》初演の2週間後のことであった。台本はロベール・デュミエールの詩に基づく。全2部5曲からなり、第1部、第2部はそれぞれひと続きに演奏される。

第1部〈前奏曲〉死海を見下ろすヘロデ王宮のテラス。イングリッシュ・ホルンが主題旋律を奏でる。〈真珠の踊り〉ヘロディアスは物思いに耽りながら宝石の中に手を入れる。サロメが現れ、身を飾りながら踊る。

第2部〈海の誘惑〉サロメが姿を消し、死海の深淵から呪われた声や歌が立ち昇る。サロメが現れ、踊り始める。ハープの五音音階で始まり、セイレーンを思わせる女声とオーボエが妖艶に歌う。〈いなずまの踊り〉暗闇のなかサロメはヘロデ王に捕らえられ、一瞬裸体となるがヨハネがマントで覆い隠す。ヘロデの怒りを買ひ、ヨハネは首を切られる。サロメは首の乗った盆を手にするが不安に駆られ、盆ごと海に投げ入れる。幻影に怯えるサロメ。〈恐怖の踊り〉嵐が吹き荒れるなかサロメは踊る。

作曲年代	1910年(組曲版)
初演	1911年1月8日、パリ、コロンヌ管弦楽団、ガブリエル・ピエルネ指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、サリュンソフーン1(今回はコントラファゴットで演奏)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、タムタム、グロッケンシュピール、小太鼓、トライアングル、シンバル、サスベンデッド・シンバル、大太鼓、ハープ2、弦楽

ラヴェル シェエラザード

歌詞対訳

訳◎博多かおる

I. Asie

Asie, Asie, Asie,
Vieux pays merveilleux
des contes de nourrice
Où dort la fantaisie
Comme une impératrice
En sa forêt tout emplie de mystère.

Asie,
Je voudrais m'en aller avec la goëlette
Qui se berce ce soir dans le port,
Mystérieuse et solitaire
Et qui déploie enfin ses voiles violettes
Comme un immense oiseau
de nuit dans le ciel d'or.

Je voudrais m'en aller vers les îles de fleurs
En écoutant chanter la mer perverse
Sur un vieux rythme ensorceleur

Je voudrais voir Damas et les villes de Perse
Avec les minarets légers dans l'air;
Je voudrais voir de beaux turbans de soie
Sur des visages noirs aux dents claires;
Je voudrais voir des yeux sombres d'amour
Et des prunelles brillantes de joie
En des peaux jaunes comme des oranges;
Je voudrais voir des vêtements de velours
Et des habits à longues franges.

第1曲 | アジア

アジア、アジア、アジア
おとぎ話に出てくる
古い魔法の国々
そこには幻想が眠っている
神秘がつまった森の
女王のように

アジアよ
わたしは旅立ちたい
今宵、港で波に優しく揺られ
ぼつねんという謎めいた帆船に乗って
船はついに紫の帆を広げる
金色の空を飛ぶ
大きな夜鳥のように

花咲く島々へと向かいたい
太古からの誘惑のリズムで
意地悪な海が歌うのを聴きながら

モスクの尖塔がすずりと空に突き出す
ダマスカスやペルシャの町々を見たい
白い歯が光る黒い顔を縁どる
美しい絹のターバンを見たい
オレンジの果実のような肌に宿る
愛に翳った目や
歓びに輝く瞳を見たい
ピロードの衣や
長い縁飾りのついた衣装を見たい

Je voudrais voir des calumets
entre des bouches
Tout entourées de barbe blanche;
Je voudrais voir d'âpres
marchands aux regards louches,
Et des cadis, et des vizirs
Qui du seul mouvement
de leur doigt qui se penche
Accorde vie ou mort au gré de leur désir.

Je voudrais voir la Perse, et l'Inde
et puis la Chine,
Les mandarins ventrus sous les ombrelles,
Et les princesses aux mains fines,
Et les lettrés qui se querellent
Sur la poésie et sur la beauté;

Je voudrais m'attarder au palais enchanté
Et comme un voyageur étranger
Contempler à loisir des paysages peints
Sur des étoffes en des cadres de sapin
Avec un personnage au milieu d'un verger;

Je voudrais voir des assassins souriant
Du bourreau qui coupe un cou d'innocent
Avec son grand sabre courbé d'Orient.

Je voudrais voir des pauvres et des reines;
Je voudrais voir des roses et du sang;
Je voudrais voir mourir
d'amour ou bien de haine.

Et puis m'en revenir plus tard
Narrer mon aventure aux curieux de rêves
En élevant comme Sindbad
ma vieille tasse arabe
De temps en temps jusqu'à mes lèvres
Pour interrompre le conte avec art...

わたしは見たい、
白いひげをたくわえた
口元からのぞく長いパイプを
怪しげな目つきをした
欲深い商人たちを
イスラムの裁判官たちや大臣たちを
この人たちは
指をほんの少し傾げるだけで
人を生かすも殺すも、気の向くまま

わたしはペルシャ、インド、
そして中国を見たい
日傘の下の太った高官たちを見たい
きゃしゃな手をしたお姫様たちや
詩と美について
議論を戦わす文人たちを見たい

わたしは魔法の宮殿にいつまでもいたい
異国の旅人らしく
ゆったりと眺めていたい
モミの額が縁取る織物に描かれた
果樹園にひとり人物がたたずむ風景を

わたしは見たい、オリエントの
曲がった大刀で罪なき者の首を切る
執行人を見て微笑む殺人者たちを

わたしは見たい、貧者と女王を
薔薇と血を
人が愛や憎しみで
死ぬのを

そしていつか戻ってきたい
夢追い人にわたしの冒険を語りたい
シンドバッドのように、
アラビアの古い杯を
ときどき唇に運び
物語を巧みに区切りながら……

II. La flûte enchantée

L'ombre est douce et mon maître dort,
 Coiffé d'un bonnet conique de soie
 Et son long nez jaune en sa barbe blanche.
 Mais moi, je suis éveillée encor
 Et j'écoute au dehors
 Une chanson de flûte où s'épanche
 Tour à tour la tristesse ou la joie,
 Un air tour à tour langoureux ou frivole
 Que mon amoureux chéri joue,
 Et quand je m'approche de la croisée,
 Il me semble que chaque note s'envole
 De la flûte vers ma joue
 Comme un mystérieux baiser.

III. L'indifférent

Tes yeux sont doux comme ceux d'une fille,
 Jeune étranger,
 Et la courbe fine
 De ton beau visage de duvet ombragé
 Est plus séduisante encore de ligne.

Ta lèvre chante
 Sur le pas de ma porte
 Une langue inconnue et charmante
 Comme une musique fausse...
 Entrel Et que mon vin te reconforte...

Mais non, tu passes
 Et de mon seuil je te vois t'éloigner
 Me faisant un dernier geste avec grâce
 Et la hanche légèrement ployée
 Par ta démarche féminine et lasse...

第2曲 | 魔法の笛

闇は心地よく、ご主人様は眠っています
 先がとがった絹の帽子をかぶり
 長く黄色い鼻を白いひげに埋めて
 でもわたしはまだ目覚めている
 家の外で
 悲しみと喜びを代わるがわる歌う
 笛の調べを聴いているのです
 愛しい恋人が奏でる
 時に物憂く、時に浮かれた歌です
 窓に近づくと
 一つ一つの音が
 笛からわたしの頬に飛んで来るよう
 不思議なキスのように

第3曲 | つれない人

あなたの目は乙女の目のように優しい
 若き異国の人よ
 薄ひげに覆われた美しい顔の
 きゃしゃな曲線は
 乙女の顔の輪郭よりも魅力的

あなたの唇は歌う、
 うちの戸口で
 私の知らぬすてきな言葉を
 調子っぱずれな音楽のように
 入って! この酒で力をつけて……

ああ、あなたは通り過ぎていく
 遠ざかる後ろ姿を戸口から見送る
 愛想よく別れの合図を送り
 女のようなけだるい足取りで
 腰を軽く振りながら去っていくあなた

PROGRAM

B

第1961回

サントリーホール

6/22 水 7:00pm

6/23 木 7:00pm

指揮

鈴木優人

ヴァイオリン

郷古 廉

コンサートマスター

篠崎史紀

バッハ(鈴木優人編)

パッサカリアとフーガ ハ短調

BWV582 [14']

ブリテン

ヴァイオリン協奏曲 作品15 [31']

I モデラート・コン・モート

II ヴィヴァーチェ

III パッサカリア: アンダンテ・レント

(ウン・ポーコ・メノ・モツ)

—— 休憩(20分) ——

モーツァルト

交響曲 第41番 ハ長調 K. 551

「ジュピター」 [31']

I アレグロ・ヴィヴァーチェ

II アンダンテ・カンタービレ

III メヌエット: アレグレット・トリオ

IV モルト・アレグロ

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは45ページをご覧ください



こちらのQRコードから

アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

鈴木優人(指揮)



© Misao Sugiyama

近年オーケストラ指揮者としても精力的に活動する鈴木優人が、2019年、2021年に続いてN響の指揮台に登場。これに先立つ2018年と2019年にはオルガン独奏で共演している。鍵盤楽器演奏、作曲、プロデュースなど多岐にわたって活躍する彼らしく、今回はバッハのオルガン名曲を自ら管弦楽に編曲、ブリテンとモーツァルトを組み合わせたプログラムを指揮する。

1981年オランダのデンハーグに生まれ、東京藝術大学作曲科を卒業後、同大学院古楽科を修了。ハーグ王立音楽院修士課程オルガン科を首席、同音楽院即興演奏科を荣誉賞つきで修了し、アムステルダム音楽院のチェンバロ科でも学んだ。ルネサンスやバロック音楽を得意とするだけでなく、同時代までの作品演奏や指揮にも柔軟な感性を示してきた。

長らく鍵盤楽器演奏で携わってきたバッハ・コレギウム・ジャパンでは、2018年9月から首席指揮者としても活躍する。2020年に読売日本交響楽団の指揮者／クリエイティブ・パートナーに就任。音楽監督を務めるアンサンブル・ジェネシスでバロックから現代にいたるプログラムを時代楽器で演奏するほか、ダンスや映像とのコラボレーションも意欲的に行う。調布国際音楽祭ではエグゼクティブ・プロデューサーを務め、作曲や舞台演出も含めて幅広く活躍。NHK-FM「古楽の楽しみ」のレギュラーをはじめ、メディア出演にも積極的な才人だ。

[青澤隆明／音楽評論家]

郷古 廉(ヴァイオリン)



© Hiroshi Suzuki

2007年デビューとキャリアは長い、今年まだ29歳。2022年4月1日付でNHK交響楽団ゲスト・アシスタント・コンサートマスターに就いた郷古廉は、日本を代表する若手ヴァイオリニストのひとりだ。長くウィーンで研鑽を積んだ。過去1年を振り返ってもシューマン、ベルク、コルンゴルトなど、いずれも一筋縄でいかないヴァイオリン協奏曲のソリストに起用され続け、鮮烈な印象を残してきた。2013年にスイスのティボール・

ヴァルガ・シオン国際ヴァイオリン・コンクールで優勝したとき現代曲賞も受けた実績が示すように、同時代作品の解釈にも秀でる。どの曲を前にしても根底から楽譜を読んで積年の“垢”を洗い落とし、卓越した知性の刃で作品本来の姿を回復させる。洗練されたスタイル、切れ味のいいテクニクは青光りする炎のようでもある。今回ソロを弾くブリテンの協奏曲は1940年、第2次世界大戦の最中にニューヨークで世界初演、反戦への思いがこめられたとされる。郷古の時代意識も鮮明にした再現を期待できそうだ。宮城県多賀城市の出身。

[池田卓夫／音楽ジャーナリスト]

鈴木優人が本公演に選んだ3人の作曲家の作品に通底する要素は「パッサカリア」と「フーガ」だ。冒頭のバッハ作品で追求されるこの2つの形式は、それぞれ続くブリテンとモーツァルトの作品で重要な役割を果たす。そして結びつけられた3曲は総体として、混迷のただ中にある2022年の世界への問いかけを発信する。神と人、戦争と平和、絶望と救済……そんなモチーフたちが、並んだ3曲の「行間」から浮かび上がる。

バッハ(鈴木優人編)

パッサカリアとフーガ ハ短調 BWV582

原曲はオルガン曲。オルガンは本来教会の楽器であり、神の声の代理人である。ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685~1750)は卓越したオルガン奏者であり、この「神の声の楽器」のために数多くの作品を書いた。BWV番号で525~770までがオルガン曲に充てられ(偽作も含むが)、その後新発見作品も加わっている。

《パッサカリアとフーガ》は1710年頃、バッハがワイマール宮廷に勤め始めた頃の作曲と推定される。宮廷オルガニスト兼音楽家として採用された若きバッハの意欲が、十二分に発揮された傑作だ。冒頭の重厚な低音主題(フランスの作曲家レーゾンの《第2旋法によるオルガン・ミサ》[1688]からの引用)を土台とした20の変奏が展開されるパッサカリア部と、同じ主題に対旋律も交えたフーガ部からなる。当時の通例を上回る大規模で複雑な作品であり、音価が次第に細分化されてゆく展開は、切迫した感情の高まりとなって聴き手に強い印象を与える。「神の声」というにはバランスを逸脱した激しさは、むしろ神へ訴求する「人間の声」か。もちろん、バッハがそこに何を託したかは知る由もない。

この作品は、その強い感情表現もあって早くから愛好され、20世紀に複数のオーケストラ編曲がなされている。レスピーギ、ストコフスキー、オーマンディなど、程度の差こそあれ、多彩な音色により楽曲の劇的な性格を強調する編曲だ。鈴木優人の編曲は本稿執筆時点では姿を現していないが、当時の音楽様式に精通し、ペリオド楽器演奏を始め過去の演奏史のアーカイブを豊かに蓄積している鈴木が現代オーケストラを通じ、2022年の今、この切迫した「声」をどのように表現するのか期待しよう。

作曲年代	1710年頃
初演	不明
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、グロッケンシュピール、弦楽

ヴァイオリン協奏曲 作品15

バッハは20世紀の作曲家にも規範であり靈感の源だが、英国のベンジャミン・ブリテン(1913~1976)も例外ではない。この広汎な音楽史的知識を備えた音楽家は、バッハはもちろん自国のダウランドやパーセルらも含む、バロック期までの古楽の遺産や形式、語法を積極的に活用した。それはいわゆる新古典主義とは一線を画し、新しい音楽語法の中に巧みに溶け込まされている。

低音主題に基づく変奏曲パッサカリアは、同種のシャコンヌ共々ブリテンの作品の中で何度か用いられ、印象的なページを記す。《歌劇「ピーター・グライムズ」》第2幕第2場への間奏曲、《弦楽四重奏曲第2番》の終楽章(シャコンヌの英語名チャコニーと指定されている)、同《第3番》の終楽章、《無伴奏チェロ組曲第3番》の終楽章などだ。いずれも、反復の力を通じ強い感情的な極点を表現する。

1938~1939年にかけて作曲され、1940年3月28日にニューヨークのカーネギー・ホールで初演された《ヴァイオリン協奏曲》はその原点と言うべき作品だろう。この曲は終楽章がパッサカリアで書かれているのみならず、冒頭に現れるティンパニの音型が一種のオスティナート主題として全曲に現れ、いわば曲の背後に巨大なパッサカリアを隠しているとも言える。

作曲の直接の動機は恩師ブリッジの友人でもあったブローサとの共演体験と、ルイス・クラスナー独奏による歴史的なバルク《ヴァイオリン協奏曲》の初演を聴いたことだが、第2次世界大戦直前の緊迫した欧州情勢への不安が暗く影を落とす。冒頭のティンパニ音型は戦火の不吉な予兆を思わせる。本作の演奏(独奏は郷古廉)は、現在の世界情勢を思えば言うまでもなく極めてアクチュアルな意義を持つ。

第1楽章は前述したティンパニの「低音主題」に導かれて始まり、ヴァイオリンの息の長い哀歌が続く。アジタートの中間部で劇的に高揚するが、再び主題が回帰し静まる。第2楽章は一転、激しく動き回るスケルツォ楽章だが、やがてヴァイオリンが「低音主題」を奏で長いカデンツァに突入、そのまま第3楽章へ。第1楽章の主題が回帰される一方でトロンボーンが新たなパッサカリア主題を導入。音楽は不安と希望の間を揺れ動きつつ静かに消えてゆく。

作曲年代	1938~1939年
初演	1940年3月28日、カーネギー・ホール、ジョン・バルビローリ指揮ニューヨーク・フィルハーモニック、アントニオ・ブローサ独奏
楽器編成	フルート3(ピッコロ2)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ1、小太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、グロッケンシュピール、トライアングル、大太鼓、中太鼓、ハープ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~1791)はバハの末子ヨハン・クリスティアンと少年期から敬意と共に交流していたが、その父の音楽を明確に意識したのは1782年春、ウィーンファン・ズヴィーテン男爵を通じてである。男爵のコレクションを通じバハやヘンデルの作品を熱心に学んだモーツァルトは特にフーガなどバロック期の対位法芸術の生きた実例を摂取し、当時作曲中の《ハイドン四重奏曲集》に活用した。

そしてこの「バハ体験」は、彼の最後の交響曲となる《第41番》に、壮麗に結実する。終楽章にフガート(フーガ様の部分)が現れ、ソナタ形式と結合し壮大な頂点を築く。その威容を同時代の音楽家・興行師ザロモンはローマ神話の最高神ジュピターになぞらえ、ニックネームの由来となった。完成は1788年8月10日。先立つ《第39番》《第40番》とともに、同年6月からわずか2か月程度のうちに作曲された。いわゆる「後期三大交響曲」だが、作曲動機は不明で、生前初演についても定かではない。

この3曲については近年、指揮者ニコラウス・アーノンクールがモーツァルトは「器楽による三部作のオラトリオ」として構想した、という注目すべき見解を公にした。《第39番》を序曲とし、終楽章の崩壊の砂塵から悲劇的な《第40番》が立ち上がり、最終的には《第41番》の神の御許での輝かしい統合に至る。この見解は大きな話題を呼び、サヴァールやミナーヅらの録音も「三部作」の視点に立つ。その当否には議論があるが、三大交響曲がモーツァルトにおける交響曲の総決算で、《第41番》が「到達点」であることに疑いはない。そして本日のプログラムにおいても、前2曲の悲劇的な様相を救いや希望へと反転させる、力強い肯定性が託されている。

第1楽章主和音の3連打で始まる堂々たる主題と、優美な第2主題が対比されるソナタ形式楽章。第2楽章弱音器をつけた弦楽器が2つの主題を繊細に描き分ける。ここでもソナタ形式。第3楽章下行音型による主部主題が印象的な3部形式のメヌエット。第4楽章冒頭に現れる「C-D-F-E」のいわゆる「ジュピター主題」はグレゴリオ聖歌に由来し、モーツァルト自身を含む多くの作曲家が用いてきた、いわば「神の音型」。実は第1楽章の第2主題、第2楽章の2つの主題、第3楽章の中間部トリオ主題にも姿を潜ませており、全ては終楽章で統合される、とも言える。ソナタ形式の中で存分に対位法が追求され、コーダでは諸主題が合流して歓喜と高揚のうちに幕を閉じる。

作曲年代	1788年6月~8月10日
初演	不明
楽器編成	フルート1、オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

PROGRAM

池袋



第1960回

東京芸術劇場

6/17 金 7:30pm

6/18 土 2:00pm

指揮 ステファヌ・ドゥネーヴ | プロフィールはp. 4

オルガン オリヴィエ・ラトリー

コンサートマスター 白井 圭

[開演前の室内楽(池袋Cプログラム限定)]

17日(金)6:45pm~/18日(土)1:15pm~

ヴァイオリン:横島礼理 ヴィオラ:山田雄司 チェロ:藤森亮一

ガーシュウィン(シュテグナー編)/3つの前奏曲(弦楽三重奏版)

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

プーランク

バレエ組曲「牝鹿」[16']

I ロンド

II アダージェット

III ラグ・マズルカ

IV アンダンティーノ

V 終曲

プーランク

オルガン協奏曲ト短調[24']

ガーシュウィン

パリのアメリカ人[16']

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

後援:豊島区

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは45ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

オリヴィエ・ラトリー (オルガン)



「ミュージシャン・コンプレ」(完全な音楽家)。オルガニストの活動に接すると、いつもこの言葉が頭に思い浮かぶ。オリヴィエ・ラトリーもそんな「ミュージシャン・コンプレ」のひとりだ。

ラトリーは1962年、パリから北に220km、ドーバー海峡に臨む街、ブローニュ・シュル・メールで産声を上げた。フランス各地の音楽学校で学んだのち、23歳の若さでパリ・ノートルダム大聖堂の首席オルガニストに就任。1995年以降は母校パリ国立高等音楽院でオルガン教授の重責を担う。

バッハとメシアンの演奏で頭角を現し、フランス作品のエキスパートとして名を馳せるラトリーは、同時に即興演奏の名手としても賞賛を得ている。書かれた作品をいま生まれたばかりの即興のように新鮮に、即興を書かれた作品のように構築的に演奏するのが身上だ。それを土台に、コンサート・ソリストとして国際的な活躍をみせる。

NHK交響楽団とは今回が初共演。一見、移り気で、それでいて全体統一の工夫が光るプーランクの協奏曲でもラトリーは、その本領を十分に発揮してくれるだろう。

[澤谷夏樹 / 音楽評論家]

Program Notes | 沼野雄司

1898年9月、ニューヨーク。アメリカで最初に美容整形を行なったという女性のもとに生まれた赤ちゃんが、ジョージと名づけられた。その4か月後、パリ。マドレーヌ教会のすぐそばで、アマチュアながらも相当の腕前を持つピアニストであった女性のもとに生まれた赤ちゃんがフランシスと名づけられた。もちろんその頃はお互いに知る由もない2人は、1920年代という輝かしい時代に青年期を迎え、やがて同じように自由で、同じように軽やかな音楽を書くことになる……。

プーランク

バレエ組曲「牝鹿」

マリー・ローランサンといえば、柔らかいパステルカラーによる独特の画風で知られる画家。彼女は1923年、ディアギレフ率いるバレエ・リュス(ロシア・バレエ団)の作品《牝鹿》の舞台美術と衣装を提供することになった。このときに音楽を担当したのがフランシス・プーランク(1899~1963)である。

バレエは、16人の若い女の子たちが戯れるだけのフワフワとした筋書きであり、タイ

トルはまさにこの女性たちを指したもの(ちなみに、この語にはレズビアンという含意もあるらしい)。初演後、プーランクはバレエ曲から5曲を選んで組曲に仕立て上げた。軽やかな曲想とはいえ、編成にはコントラファゴットやイングリッシュ・ホルンを含み、打楽器パートも多彩と、意外にゴージャスな音楽でもある。

第1曲〈ロンド〉は、導入部の浮き立つようなフレーズがまずは印象的。一方で中間部は取^あえて大げさなセンチメントを聴かせる。第2曲〈アダージェット〉は、オーボエの先導による緩やかな音楽だが、和声は全曲中でももっとも手が込んだもの。第3曲〈ラグ・マズルカ〉は、マズルカというにはせ^かわ^いし^ない、独特の諧^かい^ぎやく^くみ味。第4曲〈アンダンティーノ〉では弦楽器の旋律に応えるトランペットが鮮やか。そして第5曲〈終曲〉は、踊り手たちの身体が眼前に浮かぶような華やかな響きで幕を閉じる。

作曲年代	[バレエ版] 1923年 [組曲版] 1939~1940年
初演	[バレエ版] 1924年1月6日、モンテカルロ、エドゥアール・フラマン指揮、ロシア・バレエ団
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、小太鼓、中太鼓、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、グロックンシュピール、タンブリン、大太鼓、ハープ1、チェレスタ1、弦楽

プーランク

オルガン協奏曲ト短調

「田舎は嫌だな。好きなのはパリだけ」。そう語るプーランクの音楽が、軽やかで洒^{しや}脱^{だつ}な響きを身上とすることは間違いない。しかし一方で、彼の作品には、《歌劇「カルメル派修道女の対話」》をはじめとする、暗く深い響きを持つ、宗教的な楽曲の一群があることもまた事実だ。

デュリュフレの独奏で初演された《オルガン協奏曲》も、そうした系譜に連なる一曲。作曲家自身、ここにいるのは「陽気な」プーランクではなく「僧院に向かっているプーランク」であり、宗教曲ではないものの「教会での演奏も可能」と述べている。編成から管楽器が完全に排除されているのは、一般的にはオルガンの魅力を際立たせるためと説明されるが、狭い教会での演奏に対応するためでもあっただろう。

曲は単一楽章ながらも、ふたつの緩徐部分(アンダンテとレント)を挟みながら、冒頭主題がさまざまな形で変形されるという点で、多楽章性に近い構造を持っている。曲中では次々に音色を変えるオルガン(スコアにはストップに関するも随所で細かな指定がある)、室内楽的な機敏さで動き回る弦楽器、そしてオルガンと弦に寄り添い、特定の音型にアンダーラインを引くように機能するティンパニが、厳^{げん}粛^{しゆく}な中にもカラフルな色合いを醸し出す。

作曲年代	1934～1938年
初演	[公開初演]1939年6月21日、ロジェ・デゾルミエール指揮バリ・フィルハーモニック協会室内管弦楽団、モーリス・デュリュフレ独奏
楽器編成	ティンパニ1、弦楽、オルガン・ソロ

ガーシュウィン

パリのアメリカ人

ジョージ・ガーシュウィン(1898～1937)はラヴェルやストラヴィンスキーだけでなく、アルバン・ベルクの音楽にも強く惹かれていた。

1928年、ヨーロッパ旅行中のガーシュウィンは、ウィーンにおいて、ついに憧れの作曲家との面会を果たすが、彼が《パリのアメリカ人》を書いたのは、まさにこの直後のパリ滞在中である。軽音楽的な雰囲気^{あこが}を湛えた《パリのアメリカ人》とベルクの音楽は遠いようにも見えるが、しかしこの作品独特の「コク」、そして意外なほど手の込んだ管弦楽法にベルクの影響があると考えても、あながち間違いではない気がする。

実際、オーケストレーションは冒頭の数小節を見ても、素晴らしく手が込んでいるのではないか。「散歩の主題」がオーボエと弦楽器のユニゾンで出る際の、ファゴットの軽妙なオブリガート。さらにはクラリネットの流れるような合いの手。すりと導入される第2ヴァイオリンとヴィオラの独奏。いずれも冴えたアイデアだ。

ガーシュウィンは、この曲の初版楽譜のタイトルページに、「作曲および管弦楽化」を担当したと記している。以前の《ラプソディー・イン・ブルー》では他人にオーケストレーションを手伝ってもらったのに対して、これはすべてをひとりで書いたと主張したかったわけだ。ほほえましいエピソードながらも、本人にとって、これは沽券^{こびん}にかかわる問題だったのである(もともと、現在一般に用いられるのは、その後フランク・キャンベル・ワトソンが若干ながらも手を入れた楽譜)。

曲は大きく3つの部分に分けられる。冒頭はパリを闊歩^{かつぱ}する際の浮き立つような気分。タクシーのクラクション、そしてパリジェンヌをあらわす独奏ヴァイオリンが楽しい。中間部では旅人に憂鬱^{ゆううつ}が訪れ、トランペットがブルースを奏でる。しかし最後にはふたたび陽気な気分が戻り、チャールストンの響きとともに燦然^{さんぜん}たるクライマックスへ向かう。

作曲年代	1928年11月
初演	1928年12月13日、カーネギー・ホール、ウォルター・ダムロッシュ指揮ニューヨーク・フィルハーモニック
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、アルト・サクソフーン1、テナー・サクソフーン1、バリトン・サクソフーン1、ティンパニ1、小太鼓、ウッド・ブロック、シンバル、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、トライアングル、トムトム、タクシー・ホーン、シロフォン、グロッケンシュピール、チェレスタ1、弦楽

曲目解説執筆者

沼野雄司(ぬまの ゆうじ)

桐朋学園大学音楽学部教授。博士(音楽学)。おもな研究領域は20世紀から21世紀の音楽。多くの国際学会で研究発表を行うほか、著者に『現代音楽史——闘争しつづける芸術のゆくえ』『エドガー・ヴァレーズ——孤独な射手の肖像』『ファンダメンタルな楽曲分析入門』『リゲティ、ベリオ、ブーレーズ——前衛の終焉と現代音楽のゆくえ』など。

安川智子(やすかわ ともこ)

北里大学准教授、東京藝術大学非常勤講師。博士(音楽学)。おもな研究領域は19世紀から20世紀初頭のフランス音楽および音楽理論史。共編著書に『ハーモニー探究の歴史——思想としての和声理論』『《悪魔の口ベール》とバリ・オペラ座——19世紀グランド・オペラ研究』、共著書に『マラルメの現在』、訳書にフランソワ・ポルシル著『ベル・エポックの音楽家たち』など。

矢澤孝樹(やざわ たかき)

音楽評論家。水戸芸術館音楽部門に主任学芸員として務め、企画運営に携わった。茨城大学、慶應義塾大学非常勤講師を経て、現在山梨英和大学メイプルカレッジ講師。共著書に『最新盤 名曲名盤500 ベスト・ディスクはこれだ!』『クラシック・レーベルの歩き方』など。音楽専門誌、新聞などへの寄稿も多数。ニューロン製菓(株)代表取締役社長。

(五十音順、敬称略)

Information

訃報

当団元フルート奏者(1960年6月入団)で団友の植村泰一(うえむら やすかず)氏が2022年5月16日に逝去されました。享年88。謹んでご冥福をお祈りいたします。

N響音百年史

第二十九回 新交響楽団誕生！

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK「FM」クラシックの迷宮のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。東京・名古屋・大阪の三放送局が統合して日本放送協会が発足した一九二六年、N響の前身となる新交響楽団が遂に誕生します——。

日本放送協会発足

社団法人東京放送局が生まれ、東京のエリアでラジオの試験放送が始まったのは1925（大正14）年3月のこと。ときの首相は加藤高明。いわゆる護憲三派内閣の時代である。護憲三派とは、憲政会、立憲政友会、革新倶楽部という3つの政党を指す。つまり三党が連立与党を組んでいた。加藤首相は憲政会のリーダー。放送事業を管轄する逓信大臣は、革新倶楽部の犬養毅だった。犬養逓相が、東京、大阪、名古屋に放送局が生まれてゆく流れを支えた。同じ区域での放送局の競争を認めず、1地域に1放送局という基本方針を定めたのも犬養であった。東京放送局の総裁に任じられ、山田耕筈の後ろ盾にもなっていた後藤新平とも、よく話が通じる人だった。

ところが情勢はすぐに変わりはじめる。東京放送局が本放送を始める2か月前の1925年5月、革新倶楽部は分裂。犬養は立憲政友会に入り、逓相を退く。夏には立憲政友会が連立与党から抜け、加藤政権は憲政会単独内閣となる。辞めた犬養逓相の後を受けたのは誰か。加藤首相を支える憲政会の大物幹部として、浜口雄幸や若槻礼次郎と並び称されていた安達謙蔵である。放送行政は逓信省の重要任務。安達は大臣に就任すると、犬養前逓相や後藤総裁とは別のことを考え始めた。放送事業は国策であり、その運営は国家によってもっと積極的に取り仕切られねばならぬと、主張した。放送が新聞に匹敵する現代のメディアであるとすれば、それをいち早く全土で聴けるようにすべきである。ところが現在は、三大都市圏をカバーするにとどまっている。放送事業に参加したい民間資本が手を挙げて、国家

が認可し監督し放送内容を検閲^{けんえつ}して、放送局は契約者から聴取料をとって運営する。この調子では樺太^{からふと}から沖縄・台湾まで、いつになったらラジオが普及するのか。まことに心もとない。

おまけに放送局の資本の小ささが電波の出力に比例しているともいえる。放送電波が微弱なのである。カヴァーしているはずのエリア内でも、受信状況がよろしくないところが多い。通信省の調査では1925年度末の受信契約者のうち、感度の良い真空管式ラジオを備えているのは2割に過ぎず、8割は低感度の鉱石^{こうせき}式ラジオを使用している。鉱石式ラジオは電気要らずだから停電に関係なく放送を受信できる強みがある。が、講演や演劇や音楽は少しでも鮮明に聴こえるにこしたことはない。かといって高価な真空管式ラジオの即座の普及を求めるには無理があるので、結局、放送電波の出力を高めるのが現実的となり、しかもその電波を三大都市圏以外にも広く送信しようというのだから、必要な施策は、大電力放送所と地方中継送信所の速やかなる全国的設置に尽きてくる。そのためには放送局の運営を一元化し、資本と設備と人員を集約して運用するのがよい。

かくして1926(大正15)年4月、安達通相は、東京と名古屋と大阪の放送局の合併によって全国放送のための新組織を発足させ、爾後5年のうちに全国放送網を完成させることを提案した。名古屋と大阪の放送局をリードする立場にある東京放送局はどう考えたか。後藤総裁は、安達通相による国家中心の「上からの中央集権型全国放送局」という発想がどうやら気に入らなかつた。後藤の考える理想の全国公共放送は、それぞれの地域の民間資本の参加による「下からのネットワーク型全国放送局網」のほうへ寄っていた。少し迂遠^{うゑん}と感じ

られても、地域の実情に即するかたちの放送局が草の根的に立ちあがってくるのが良い。しかし、通信省は、国家の睨^{にら}みを利かせるかたちでの中央放送局の設置を目論^{もくろ}んでいる。それも放送局の人事権に大幅に干渉しようとしているらしい。土台を民間の努力で作らせておきなごら！トンビ^{あぶらあ}が油揚げをかつさう要領だ。後藤は気に食わない。かといって国策に抗するのには無理がある。通信省と3放送局とのあいだで、6月から7月のあたまにかけて話し合いが進められ、3放送局の統合後の名称も日本放送協会と決まった。後藤総裁は放送局を離れることとなり、彼が放送局に集めた者たちからも大将と行動をともにする者が出た。

8月20日の午後6時55分、東京放送局はその名称としての最後の放送を行った。マイクの前に立ったのは、後藤の意を受け、山田耕筰の顔を立てながら、日本交響楽協会を手厚く援助してきた、放送部長の服部^{はつとりよしお}愿夫である。服部は述べた。「皆様とお馴染^{なじみ}の深い東京放送局は本日解散いたしまして、今後は日本放送協会の関東支部となり、名を東京中央放送局と改めることになりました。たとへ実態に変化なく、寧ろますます公共のために盡すことが出来るやうになつたとはいへ、又不自由^{がら}な開設当時から、皆様も私共も、力を合せて育て上げて来た経過を顧みますと、東京放送局といふ名称に対しては、聊^{いささ}か愛情を感じずには居られないのであります」。午後7時、東京放送局は日本放送協会になった。

後ろ盾を失った山田

こうして社団法人東京放送局の短い歴史は終わった。仮放送開始からだ1年半に満た

ない。この放送局の歴史と重なりつつ、山田耕筰は、満洲ヤソ連とのパイプの太い後藤新平に上手に取り入り、ハルビンとソ連の演奏家を招聘して日露交驩(交歓)交響管絃楽演奏会を実現させ、それをサカナに師匠の山田から自立したくてたまらなかつた近衛秀麿を手元に引き留め続け、放送局から経済的援助を引き出して日本交響楽協会を常設オーケストラとして軌道に乗せた。そこでの近衛の貢献が音楽と経済の両面でどんなに大ききとも、山田が日本交響楽協会の指導者であり続けられていたのは、最後は放送局との深いつながりという一点のせいだったろう。それを危うくしていったのが、1926年春からの激しい経過であったろう。

安達が放送局の統合を叫び、後藤との軋轢を生み、後藤も服部も放送の世界から退場してゆく。そうなれば、文化芸術を広めて国民の民度を上げるのが使命の公共放送に交響楽団は大切との理念は継承されるとしても、そこに山田という音楽家が不可分という一種の保証は薄れざるを得ない。近衛がよければ近衛でもかまわない。ちょうどそういう時期に、山田が焦って無茶な大企画をプロデュースしてしまう。前回触れた日本交響楽祭である。4月に予約演奏会とは別に4日連続で、日本交響楽協会のフル・メンバーに陸海軍軍楽隊や数多のエキストラを加え、日露交驩交響管絃楽演奏会の興奮をもう一度というつもりで開催するが、興行としては空振り。はて、その膨大な経費は？

6月の13日と27日、日本交響楽協会は第11回と第12回の予約演奏会を開催して、上半期のシーズンを終える。第11回は近衛が、第12回は、日本交響楽祭終了後に病氣と称して山田がずっと出てこなくなったので、ヨゼフ・ケーニヒが指揮した。第11回については、浅草オペラの演出家にして優れた批評家でもあった

伊庭孝が雑誌『音楽評論』で次のように評した。「曲目第一のメンデルスゾーンの『真夏の夢』はまったく完璧といつてよい位、是ほどの出来ならば理屈なしに享楽出来るのである」。グリーグの《「パウル・ギュント」組曲》では「朝の気分』は聊か混乱してラッシュアワーの気分を出したが、『アラビヤダンス』は見事な出来であった。管楽と拍撃が見事な活躍をした」。ブラームスの《ハンガリー舞曲》からは3曲が選ばれたが、「第三番は特にオボエの活躍を要するもので、最近著しく進境を示した阿部(万次郎)の日本人離れたオボエは吾人に満足を与へた」。そして最後の演目、リストの《交響詩「レ・プレリュード」》は「昨年の日露交歓の際の演奏と比べて聞き劣りのしなかつたことは、大成功と謂はねばならない」。外来演奏家がメンバーの約半分を占めたときと同等のよい音がしたと、うるさがたの伊庭が褒めている！山田よりも近衛とセットの日本交響楽協会という印象が、ファンのあいだにますます高められて、楽団は夏休みに入った。

日本交響楽協会の瓦解と 新交響楽団の誕生

問題発覚はそのあとだったようである。7月の決算で日本交響楽協会の会計が5000円の赤字とわかったという。日本交響楽協会の収入は放送局からの賛助金と番組出演の報酬、及び予約演奏会のチケット収入等を合わせて月に5000円ほど。それに匹敵する金額を山田が勝手に使って赤字を出したという。用途は明らかではないが、時期から考えて、日本交響楽祭の大赤字を「病氣」で寝ているあいだにひそかに埋めようとして、ついに埋まらなかったということではあるまいか。その頃は、東京

放送局が日本放送協会に発展的に解消してゆく時期に当たっており、山田が裏で使える手を使おうとしても使えなくなっていた頃合いと考えられる。そこで7月まで大きな欠損が残る、ついに露見した。慌てた近衛が私費を3000円入れて、とりあえず急場をしのぎ、その後、山田に任せるとまた何に使うかわからないので、お金を近衛が預かり、実際の通帳は楽壇のマネージャー、原善一郎が扱うことにした。おそらく山田には埋めたいひそかな借金がまだあった。通帳を取り上げないと危ない。当然の判断だろう。

原はもともと、ハルビンを拠点とした商社、松浦洋行の社員だった。ロシア語が上手で、ハルビンの白系ロシア人の世界に通じていたので、山田が日露交響交響管絃楽演奏会開催のための実務に使い、日本交響楽協会のマネージャーになっていた。日本交響楽祭の経理も任せられ、上手に赤字を埋めるか、無理なら少しでも誤魔化すことを期待されていたろう。が、もとは有能な商社員の原の手にもさすがに余る仕事だった。

原は真実を近衛に打ち明け、近衛と原が結んで、山田からプロデュース権を奪おうとした。日本交響楽協会の予約演奏会の指揮だけをおとなくしていなさい。そう論じたのだらう。ところが山田は納得しないどころか怒り狂った。原を誅首して、通帳を取り返そうとした。近衛は山田とはこの先一緒にやれないと思った。師匠の顔を立てるのにも限度がある。ベルリンに戻って指揮活動をする手蔓もある。新組織、日本放送協会とコンビを組む日本交響楽協会のことは、山田の好きにしておこう。9月7日、

近衛は日本交響楽協会から退会すると山田に申し入れた。

これで話は一段落したか。近衛が去って、山田のもとで日本交響楽協会があらためて団結する。山田の願いだっただが、そうは問屋が卸さない。楽団員が納得しない。山田はあまりに山師である。楽団がいくら稼いでも楽団員の給与にまわさず、危険な賭けに出ては蕩尽してしまう。もうみんなが思い知っている。山田に従ってはオーケストラはじきに必ず立ちゆかなくなる。しかも日本交響楽協会の音楽の評価は、山田よりもずっと近衛とともにある。山田よりも近衛を慕い、日本交響楽協会よりも近衛シンフォニー・オーケストラに帰属意識を持つメンバーのほうがもともと多い。

かくして分裂は起こるべくして起こった。近衛の退会届に連動して、日本交響楽協会から大量の脱退者が出た。その数、40人以上。山田を裏切れないと協会に残ったメンバーはわずか4人。脱退メンバーは近衛を担いで新しいオーケストラを作ろうとした。その名も新交響楽団。結成式が行われた10月5日がNHK交響楽団の誕生日とされている。

社団法人日本放送協会の誕生日はというと約1か月半前の8月20日。日付の近さには意味があった。2つのドラマは関連していた。そう考えてよかろう。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

次回予告

近衛は日本放送協会の洋楽主任、堀内敬三にベルリン行きを引き止められ、自らを慕う楽団員たちの希望もあって、新交響楽団の舵取りを引き受けます。

2022年9月定期公演の聴きどころ

公演企画担当者から

2022年9月、首席指揮者ファビオ・ルイーゼと共に、N響が次のステージを迎える。就任記念のプログラムは、ルイーゼが並々ならぬ意欲を注ぐ祖国イタリアの大曲、そして指揮者とオーケストラの双方が得意とするドイツ音楽である。私たちの今後にとって、大切な意味を持つ1か月になる。

新シーズンの幕開けを飾るのは 生と死の意味を問う、超豪華プログラム

【Aプログラム】はヴェルディ《レクイエム》。カトリック信仰から距離を置く作曲家は、死者を弔う典礼音楽の枠を超えて、死そのもの、あるいは死後の世界について、根源的な問いを投げかけた。年齢を重ねるにつれ、この曲への関心がますます高まってきたとルイーゼは語る。「単に悲しみを描いたのではなく、人生とは何かを探究する音楽なのです」。就任の初めに《レクイエム》を置いた意図はここにある。

誰もが知る〈怒りの日〉のインパクトは絶大

だが、バスが囁くように歌う「死も自然界も驚くだろう」、ソプラノの痛切な祈りが耳に残る〈われを許したまえ〉の終結部、こうした箇所こそが、生と死の意味を問う核心部であろう。図らずも今日、そのような問いの切実さは増すばかりである。

世界トップクラスの歌手を揃えて送るこの公演は、間違いなくシーズン最大の目玉となる。

首席指揮者ルイーゼが十八番を披露 隠しテーマは「モーツァルトへのオマージュ」

【Cプログラム】のR. シュトラウスは、ルイーゼにとって不可欠のレパートリーである。「モーツァルトへのオマージュ」を隠しテーマに、人氣の高い3曲をお届けする。

ドン・ジョヴァンニ、すなわち《交響詩「ドン・ファン」》の主人公は、伝説の色事師。詩人レーナウにより、そのキャラクターは究極の愛を求める理想主義者へと変貌した。ルイーゼは、24歳のシュトラウスが示した詩作の人物像への深い洞察と、練達のオーケストレーション

ンに驚きを隠さない。

そのシュトラウスが晩年に行き着いたのは、モーツァルトにも通じる自由で平明な境地だった。《オーボエ協奏曲》はその典型例である。ソリストのエヴァ・スタイナーは、ルイージが絶賛するデンマーク国立交響楽団の若き首席奏者。

《フィガロの結婚》を彷彿とさせる《歌劇「ばらの騎士」》は、かつてルイージが音楽監督を務めたドレスデンの歌劇場で初演された。18世紀のウィーン貴族社会を舞台に、シュトラウスは時の流れへの感慨を永遠の美に封じ込めた。オペラの名旋律を紡いだ組曲版を送る。

ルイージ&N響の門出を寿ぐ 幸福感に満ちたブラームス《第2番》

[Bプログラム]には、ジェームズ・エーネスが7年ぶりに登場する。名手が織りなす美音に

は、一瞬たりとも潰れやかすれがない。まるで高級車に乗っているかのような抜群の安定感、弓の圧力の絶妙なコントロールに支えられている。ヴァイオリニストを志すきっかけになったベートーヴェン《ヴァイオリン協奏曲》を、エーネスは「生涯にわたり弾き続けたい」と言う。ちょうど20年前にもN響と演奏しているが、不朽の名曲は、時を経てまた別の輝きを放つだろう。

後半は同じニ長調のブラームス《交響曲第2番》。ルイージによれば、ブラームスの中で唯一、悲しみとは無縁の交響曲である。時おりよぎるメランコリーな情感も、全体を満たす幸福感に溶け込んでいる。ブラームスのニ長調は、勝利や歓喜ではなく、人間味と慈愛にあふれた調性なのだ。ルイージとの門出が、幸多きものになることを願いたい。

[西川彰一/NHK交響楽団演奏制作部長]

※mélomane: フランス語で「音楽愛好家」の意

A 9/10 土 6:00pm
9/11 日 2:00pm

NHKホール

ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念

ヴェルディ/レクイエム

指揮: ファビオ・ルイージ

ソプラノ: ヒブラ・ゲルズマーワ メゾ・ソプラノ: オレシア・ペトロヴァ

テノール: ルネ・バルベラ バス: ヨン・グアンチョル

合唱: 新国立劇場合唱団



B 9/21 水 7:00pm
9/22 木 7:00pm

サントリーホール

ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念

ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61

ブラームス/交響曲 第2番 二長調 作品73

指揮: ファビオ・ルイージ

ヴァイオリン: ジェームズ・エーネス



C 9/16 金 7:30pm
9/17 土 2:00pm

NHKホール

ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念

R. シュトラウス/交響詩「ドン・ファン」作品20

R. シュトラウス/オーボエ協奏曲 二長調

R. シュトラウス/歌劇「ばらの騎士」組曲

指揮: ファビオ・ルイージ オーボエ: エヴァ・スタイナー



NHK交響楽団定期公演

2022-23シーズンプログラム(2022年9月~2023年6月)

NHKホール改修の終了に伴い、今シーズンからA・Cプログラムの会場を同ホールに戻して開催いたします。また各プログラムのコンセプトの明確化、開演時刻の変更、ユースチケット拡充など、より気軽にN響の演奏をお楽しみいただくためにさまざまな工夫をこらして、みなさまを会場にお迎えます。

新首席指揮者ルイージを中心に、プロムシュテット、P. ヤルヴィ、尾高忠明などの世界的巨匠や名ソリストたちと奏でる音楽に、ひとりでも多くの方が触れていただけることを願っています。

リニューアルのご案内

新シーズンでは、N響ならではの豪華な出演者や充実した演目は従来通りのままに、リニューアルします。

公演会場の変更(A・Cプログラム)

前シーズンまで東京芸術劇場で開催されたAプログラムとCプログラムの会場を、NHKホールに戻して開催します。

※Bプログラムは引き続きサントリーホールで開催します。

開演時刻の変更(A・Cプログラム)

Aプログラム2日目(日曜)とCプログラム2日目(土曜)は2:00pmに、Cプログラム1日目(金曜)は7:30pmに、それぞれ開演時刻を変更させていただきます。

※Aプログラム1日目(6:00pm)、Bプログラム1・2日目(7:00pm)の開演時刻に変更はございません。

ユースチケットの拡充

25歳以下の方へのお得なチケット、ユースチケットが今シーズンからさらにお得になります。

1回券

全券種で割引率を50%以上に設定。今シーズンよりユースチケットが適用されるE席(NHKホール限定)では1000円~(Aプログラム)/800円(Cプログラム)でコンサートを楽しまいただけます。

定期会員券

D席にユースチケット会員券をご用意。今シーズンからは、A・Bプログラムは1公演あたり900円~、Cプログラムは800円~と、E席1回券(A・Cプログラムのみ)と同等以上のお得な価格でお求めいただけます。

NHKホール公演のE席を指定席に

NHKホールの3階席後方に設けられたE席自由席は、感染症対策などの理由から、今シーズンより指定席として販売させていただきます。この指定席化にあわせ、これまで対象外だった「WEBセレクト3+」(8%OFF)、「定期会員割引」(10%OFF)、「ユースチケット」(50%OFF)をE席でも導入いたします。

お得なセレクト券「WEBセレクト3+」

WEBセレクト3+(スリープラス)は、昨2021-22シーズンから導入された定期会員券の「お得さ」(割引)と1回券の「使い勝手の良さ」(自由にチケットを選べる)をあわせ持ったチケットです。コロナの影響による相次ぐ発売日等の変更により、2021-22シーズンにその特色を生かせる機会は少なくなりましたが、今シーズンも継続することを決定。自分の好みに合ったコンサートをお得に聴いてみませんか?

WEBセレクト3+とは?

AUTUMN(9~11月)、WINTER(12~2月)、SPRING(4~6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、お好きな公演を3つ以上セレクトして、まとめて購入すると1回券の一般料金より約8%の割引。座席や券種は、公演ごとに自由にお選びいただけます(WEBチケットN響のみで販売)。

2022-23シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

A

NHKホール | 土 6:00pm 日 2:00pm

N響が国内外の最高峰の指揮者やソリストと多彩な曲目をお贈りするプログラム。オーケストラ音楽の醍醐味を存分に味わえます。またNHKホールのスケールの大きさを生かした、声楽入りの作品や大編成の曲目が並ぶのもAプログラムならではの特色です。

※ NHKホールの改修工事の終了にともない、今シーズンより会場をNHKホールに戻して開催します。
※ 日曜公演の開演時刻を2:00pmに変更させていただきます。

Autumn

2022

09 September

第1962回

9/10 土 6:00pm

9/11 日 2:00pm

新首席指揮者が最高峰の歌手たちと築く
音の壮麗な記念碑

ファビオ・ルイーゼ首席指揮者就任記念

ヴェルディ/レクイエム

指揮: ファビオ・ルイーゼ テノール: ルネ・バルベラ
ソプラノ: ヒブラ・ゲルズマーワ バス: ヨン・グアンチョル
メゾ・ソプラノ: オレシア・ベトロヴァ 合唱: 新国立劇場合唱団



Fabio Luisi

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,200
D ¥5,000	D ¥2,500
E ¥3,300	E ¥1,600

2022

10 October

第1965回

10/15 土 6:00pm

10/16 日 2:00pm

マーラー芸術の集大成《交響曲第9番》を
ブロムシュテットが究める

マーラー/交響曲 第9番 二長調

指揮: ヘルベルト・ブロムシュテット



Herbert Blomstedt

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

2022

11 November

第1968回

11/12 土 6:00pm

11/13 日 2:00pm

完全燃焼への序章 井上道義のお家芸
伊福部&シオスタコーヴィチ

伊福部 昭/シンフォニア・タブカーラ

シオスタコーヴィチ/交響曲 第10番 ホ短調 作品93

指揮: 井上道義



Shoji Iwano

一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥4,000
A ¥7,400	A ¥3,500
B ¥5,800	B ¥2,800
C ¥4,700	C ¥2,100
D ¥3,700	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

Winter

2022

12 December

第1971回

12/3 土 6:00pm

12/4 日 2:00pm

ルイーゼ&藤村のコンビで味わう
19世紀ドイツ・ロマンティシズムの真髄

ワグナー/ウェーゼンドクンの5つの詩

ブルックナー/交響曲 第2番 八短調 (初稿/1872年)

指揮: ファビオ・ルイーゼ
メゾ・ソプラノ: 藤村実穂子



Fabio Luisi

一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

2023

01

January

第1974回

1/14 土 6:00pm

1/15 日 2:00pm

名匠がブラームスとベートーヴェンの傑作を携え
3年ぶりに登場!

ブラームス/ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83

ベートーヴェン/交響曲 第4番 変ロ長調 作品60

指揮:トウガン・ソヒエフ

ピアノ:ハオチェン・チャン



一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥4,000
A ¥7,400	A ¥3,500
B ¥5,800	B ¥2,800
C ¥4,700	C ¥2,100
D ¥3,700	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

2023

02

February

第1977回

2/4 土 6:00pm

2/5 日 2:00pm

父高忠とその友人たち

尾高忠明 こだわりの選曲が現代人の魂に響く

尾高尚忠/チェロ協奏曲 イ短調 作品20

バヌフニク/カティンの墓碑銘

ルトスワフスキ/管弦楽のための協奏曲

指揮:尾高忠明

チェロ:宮田 大



一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥4,000
A ¥7,400	A ¥3,500
B ¥5,800	B ¥2,800
C ¥4,700	C ¥2,100
D ¥3,700	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

Spring

2023

04

April

第1980回

4/15 土 6:00pm

4/16 日 2:00pm

パーヴォ・ヤルヴィ&N響が大管弦楽で描く
アルプスの壮大なパノラマ

R. シュトラウス/「ヨゼフの伝説」から交響的断章

R. シュトラウス/アルプス交響曲 作品64

指揮:パーヴォ・ヤルヴィ



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800
E ¥2,800	E ¥1,400

2023

05

May

第1983回

5/13 土 6:00pm

5/14 日 2:00pm

下野竜也が見つめる“祈り”と“奇跡”
そしてライフワークのドヴォルザーク

ラフマニノフ/歌曲集 作品34

—「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、「ヴォカリーズ」

グバイドゥーリナ/オッフエルトリウム*

ドヴォルザーク/交響曲 第7番 二短調 作品70

指揮:下野竜也

ヴァイオリン:バイバ・スクリデ*



一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥4,000
A ¥7,400	A ¥3,500
B ¥5,800	B ¥2,800
C ¥4,700	C ¥2,100
D ¥3,700	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

2023

06

June

第1986回

6/10 土 6:00pm

6/11 日 2:00pm

“カゼッラ・リバイバル”の仕掛人
ノセダが贈る傑作歌劇のエッセンスプロコフィエフ/交響組曲「3つのオレンジへの恋」
作品33bis

プロコフィエフ/ピアノ協奏曲 第2番ト短調 作品16

カゼッラ/歌劇「蛇女」からの交響的断章[日本初演]

指揮:ジャンンドレア・ノセダ

ピアノ:未定



一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥4,000
A ¥7,400	A ¥3,500
B ¥5,800	B ¥2,800
C ¥4,700	C ¥2,100
D ¥3,700	D ¥1,500
E ¥2,000	E ¥1,000

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥65,970 A ¥56,610 B ¥44,010 C ¥35,730 D ¥27,540 D(ユースチケット) ¥8,100(税込)

シーズン会員券(3回) | S ¥23,820 A ¥19,860 B ¥15,570 C ¥12,540 D ¥9,480 D(ユースチケット) ¥3,300(税込)

2022-23シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

B

サントリーホール

水 7:00pm

木 7:00pm

日本を代表するクラシックの殿堂、サントリーホールでお届けするプログラム。モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス、ドヴォルザークなど大作曲家の有名曲を中心に、国際的な指揮者やソリストとともにクオリティの高い演奏をお贈りします。

Autumn

2022

09

September

新首席指揮者が響と取り組む
ドイツ・オーストリア王道の傑作

ファビオ・ルイーゼ首席指揮者就任記念

ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61
ブラームス／交響曲 第2番 二長調 作品73

指揮：ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン：ジェームズ・エーネス



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

第1964回

9/21

水 7:00pm

9/22

木 7:00pm

2022

10

October

グリーグとニルセン
プロムシュテットが愛でる北欧の名作

グリーグ／ピアノ協奏曲 1短調 作品16
ニルセン／交響曲 第3番 作品27「広がり」

指揮：ヘルベルト・プロムシュテット
ピアノ：オリムストネン



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

第1967回

10/26

水 7:00pm

10/27

木 7:00pm

2022

11

November

エキスパートのタクトで味わう
英国作曲界の巨人による叙情あふれる名作

ヴォーン・ウィリアムズ生誕150年

ヴォーン・ウィリアムズ／

「富める人とラザロ」の5つのヴァリエーション
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 小短調 作品64
ヴォーン・ウィリアムズ／交響曲 第5番 二長調

指揮：レナード・スラットキン ヴァイオリン：レイ・チェン



一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥4,000
A ¥7,400	A ¥3,500
B ¥5,800	B ¥2,800
C ¥4,700	C ¥2,100
D ¥3,700	D ¥1,500

第1970回

11/23

水祝 7:00pm

11/24

木 7:00pm

Winter

2022

12

December

ルイーゼの指揮、河村尚子のピアノで
“究極”の名曲を堪能する

グリンカ／歌劇「ルスランとリュドミーラ」序曲
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 八短調 作品18
ドヴォルザーク／交響曲 第9番 小短調 作品95
「新世界から」

指揮：ファビオ・ルイーゼ ピアノ：河村尚子



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

第1973回

12/14

水 7:00pm

12/15

木 7:00pm

2023
01 January
第1976回
1/25 水 7:00pm
1/26 木 7:00pm

色彩の魔術師ソビエフがセレクトする
20世紀の名品たち

バルトーク／ヴィオラ協奏曲
ラヴェル／「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番
ドビュッシー／交響詩「海」
指揮：トウガン・ソビエフ
ヴィオラ：アミハイ・グロス



一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥4,000
A ¥7,400	A ¥3,500
B ¥5,800	B ¥2,800
C ¥4,700	C ¥2,100
D ¥3,700	D ¥1,500

2023
02 February
第1979回
2/15 水 7:00pm
2/16 木 7:00pm

大器フルシヤ、母国チェコの愛国的作品と
ブラームスの名作を携えN響再登場
ドヴォルザーク／序曲「フス教徒」作品67
シマノフスキ／交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」*
ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98
指揮：ヤクブ・フルシヤ
ピアノ：ピョートル・アンデルシェフスキ*



一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥4,000
A ¥7,400	A ¥3,500
B ¥5,800	B ¥2,800
C ¥4,700	C ¥2,100
D ¥3,700	D ¥1,500

Spring

2023
04 April
第1982回
4/26 水 7:00pm
4/27 木 7:00pm

シベリウス、ラフマニノフ、チャイコフスキー
バーヴォ・ヤルヴィの十八番でその至芸を聴く
シベリウス／交響曲 第4番 イ短調 作品63
ラフマニノフ／バガニニの主題による狂詩曲 作品43*
チャイコフスキー／幻想曲「フランチェスカ・ダリミニ」
作品32
指揮：バーヴォ・ヤルヴィ ピアノ：マリー・アンジュ・グッチ*



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2023
05 May
第1985回
5/24 水 7:00pm
5/25 木 7:00pm

新緑の季節 清々しいホルンの響きと
ルイージが誘う《田園》
ハイドン／交響曲 第82番 ハ長調 Hob. I-82「くま」
モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447
ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」
指揮：ファビオ・ルイージ
ホルン：福川伸陽



一般	ユースチケット
S ¥9,800	S ¥4,500
A ¥8,400	A ¥4,000
B ¥6,700	B ¥3,300
C ¥5,400	C ¥2,500
D ¥4,400	D ¥1,800

2023
06 June
第1988回
6/21 水 7:00pm
6/22 木 7:00pm

ノセダがメモリアルイヤーに問う
ラフマニノフ初期作の真価
バッハ（レスピーギ編）／3つのコラール
レスピーギ／グレゴリオ風協奏曲*
ラフマニノフ／交響曲 第1番 二短調 作品13
指揮：ジャンドレア・ノセダ
ヴァイオリン：庄司紗矢香*



一般	ユースチケット
S ¥8,900	S ¥4,000
A ¥7,400	A ¥3,500
B ¥5,800	B ¥2,800
C ¥4,700	C ¥2,100
D ¥3,700	D ¥1,500

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥65,970 A ¥56,610 B ¥44,010 C ¥35,730 D ¥27,540 D(ユースチケット) ¥8,100(税込)

※Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません

2022-23シーズン定期公演プログラム

PROGRAM



NHKホール | 金 7:30pm 土 2:00pm

通常よりコンパクトな60分～80分程度に公演時間を凝縮し、世界的指揮者たちとともにとびきりの名作をリーズナブルな価格でお届けします。今シーズンからは曲間に解説をまじえるなど、より親しみやすいコンサートを目指します。

※ NHKホールの改修工事の終了にともない、今シーズンより会場をNHKホールに戻して開催します。

※ 休憩のない、60～80分程度の公演となります。

※ 金曜公演の開演時刻を7:30pm、土曜公演の開演時刻を2:00pmに変更させていただきます。

[Cプログラム限定]「開演前の室内楽」 1日目は6:45pm、2日目は1:15pmよりホールの舞台上で開催します。ご自身の座席で約15分のN響メンバーによるミニコンサートをお楽しみください。室内楽演奏中の客席への出入りは自由です。

Autumn

2022

09

September

第1963回

9/16 金 7:30pm

9/17 土 2:00pm

ルイージ& N響が紡ぐ
R. シュトラウスの豊潤な響きに身をゆだねる

ファビオ・ルイージ首席指揮者就任記念

R. シュトラウス／交響詩「ドン・ファン」作品20

R. シュトラウス／オーボエ協奏曲 二長調

R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲

指揮：ファビオ・ルイージ オーボエ：エヴァ・スタイナー



一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥3,500
A ¥6,500	A ¥3,000
B ¥5,200	B ¥2,400
C ¥4,200	C ¥1,900
D ¥3,200	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2022

10

October

第1966回

10/21 金 7:30pm

10/22 土 2:00pm

巨匠が愛情をこめて奏でる
シューベルトの知られざる名作

シューベルト／交響曲 第1番 二長調 D. 82

シューベルト／交響曲 第6番 八長調 D. 589

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット



一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥3,500
A ¥6,500	A ¥3,000
B ¥5,200	B ¥2,400
C ¥4,200	C ¥1,900
D ¥3,200	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2022

11

November

第1969回

11/18 金 7:30pm

11/19 土 2:00pm

アメリカ音楽の伝道師スラットキンの
コーブランド名バレエ音楽集

コーブランド／バレエ音楽「アバラチアの春」(全曲)

コーブランド／バレエ音楽「ロデオ」(全曲)

指揮：レナード・スラットキン



一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥3,500
A ¥6,500	A ¥3,000
B ¥5,200	B ¥2,400
C ¥4,200	C ¥1,900
D ¥3,200	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

Winter

2022

12

December

第1972回

12/9 金 7:30pm

12/10 土 2:00pm

モーツァルトの輝き、メンデルスゾーンの哀愁
ルイージが描き出す鮮烈なコントラスト

モーツァルト／交響曲 第36番 八長調 K. 425「リンツ」

メンデルスゾーン／交響曲 第3番 イ短調 作品56

「スコットランド」

指揮：ファビオ・ルイージ



一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥3,500
A ¥6,500	A ¥3,000
B ¥5,200	B ¥2,400
C ¥4,200	C ¥1,900
D ¥3,200	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2023
01 January
第1975回
1/20 金 7:30pm
1/21 土 2:00pm

名匠が贈る
ラフマニノフ、チャイコフスキーの初期の名作
ラフマニノフ／幻想曲「岩」作品7
チャイコフスキー／交響曲 第1番ト短調 作品13
「冬の日の幻想」
指揮：トゥガン・ソヒエフ



一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥3,500
A ¥6,500	A ¥3,000
B ¥5,200	B ¥2,400
C ¥4,200	C ¥1,900
D ¥3,200	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2023
02 February
第1978回
2/10 金 7:30pm
2/11 土 祝 2:00pm

愛、怒り、高揚、憧れ、幻想
——ダンスに込められた心の機微を
フルシャが浮き上がらせる
バーンスタイン／「ウエスト・サイド・ストーリー」から
シンフォニック・ダンス
ラフマニノフ／交響的舞曲 作品45
指揮：ヤクブ・フルシャ



一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥3,500
A ¥6,500	A ¥3,000
B ¥5,200	B ¥2,400
C ¥4,200	C ¥1,900
D ¥3,200	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

Spring

2023
04 April
第1981回
4/21 金 7:30pm
4/22 土 2:00pm

小粒でもピリリと辛い！
パーヴォ・ヤルヴィが贈るお洒落で小粋なフランス作品集
ルーセル／弦楽のためのシンフォニエッタ 作品52
ブーランク／シンフォニエッタ
イペール／室内管弦楽のためのディヴェルティスマン
指揮：パーヴォ・ヤルヴィ



一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥3,500
A ¥6,500	A ¥3,000
B ¥5,200	B ¥2,400
C ¥4,200	C ¥1,900
D ¥3,200	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2023
05 May
第1984回
5/19 金 7:30pm
5/20 土 2:00pm

19世紀末のフランスを象徴する交響楽の名品を
ルイージの指揮で聴く
サン・サーンス／ピアノ協奏曲 第5番 へ長調 作品103
「エジプト風」
フランク／交響曲 二短調
指揮：ファビオ・ルイージ
ピアノ：パスカル・ロジェ



一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥3,500
A ¥6,500	A ¥3,000
B ¥5,200	B ¥2,400
C ¥4,200	C ¥1,900
D ¥3,200	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

2023
06 June
第1987回
6/16 金 7:30pm
6/17 土 2:00pm

満を持して、N響で初披露
ノセダ得意のショスタコーヴィチ《第8番》
ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 八短調 作品65
指揮：ジャンドレア・ノセダ



一般	ユースチケット
S ¥7,400	S ¥3,500
A ¥6,500	A ¥3,000
B ¥5,200	B ¥2,400
C ¥4,200	C ¥1,900
D ¥3,200	D ¥1,400
E ¥1,600	E ¥800

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回) | S ¥56,610 A ¥49,725 B ¥39,780 C ¥32,130 D ¥24,480 D(ユースチケット) ¥7,200(税込)
シーズン会員券(3回) | S ¥19,890 A ¥17,520 B ¥14,010 C ¥11,250 D ¥8,550 D(ユースチケット) ¥3,000(税込)

チケットのご案内(定期公演 2022年9月～2023年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～30%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

※ A・CプログラムはNHKホール改修工事の終了にともない、今シーズンより会場をNHKホールに戻して開催します

※ A-2とC-2の開演時刻は2:00pm、C-1の開演時刻は7:30pmとさせていただきます。A-1(6:00pm)、B-1、B-2(7:00pm)の開演時刻に変更はございません

発売開始日	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2022年7月14日[木](定期会員先行)／2022年7月18日[月・祝](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2022年10月13日[木](定期会員先行)／2022年10月19日[水](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2023年2月14日[火](定期会員先行)／2023年2月17日[金](一般)

料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(コースチケット)
年間会員券(9回) [A・Bプログラム]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥8,100 (¥900)
年間会員券(9回) [Cプログラム]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥7,200 (¥800)

券種	S	A	B	C	D	D(コースチケット)
シーズン会員券(3回) [Aプログラム]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,620)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,300 (¥1,100)
シーズン会員券(3回) [Cプログラム]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,000 (¥1,000)

※()内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日	9・10・11月	2022年8月発売予定(定期会員先行／一般)
	12・1・2月	2022年10月発売予定(定期会員先行／一般)
	4・5・6月	2023年3月発売予定(定期会員先行／一般)

※発売日は決まり次第、N響ホームページ等で発表いたします

※発売予定時期は変更となる場合があります

WEBセレクト3+

Autumn(9～11月)、Winter(12～2月)、Spring(4～6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いたします。座席・券種は自由にお選びいただけます。

※ お取り扱いにはWEBチケットN響のみとなります

※ 1回券の一般発売日からご利用いただけます

※ 割引の併用はできません

※ 定期会員の方は1回券の会員割引(約10%割引)をご利用ください

コースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ N響ガイドのみの販売となります

※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただきます

お問い合わせ

N響ガイド | TEL 03-5793-8161

営業時間: 11:00am～5:00pm

定休日: 土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜

● 主催公演開催日は曜日に関わらず11:00am～開演時刻まで営業

● 発売初日の土・日・祝日は11:00am～3:00pmの営業

● 感染症予防対策のため電話受付のみの営業

WEBチケットN響(手数料無料) <https://ticket.nhks.or.jp>

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません

Please follow us on     

特別公演

7/1金 7:00pm | Music Tomorrow 2022

東京オペラシティ コンサートホール | ※尾高賞授賞式・プレトーク：6:30pm～

指揮：イラン・ヴォルコフ チェロ：オーレン・シェヴリン ヴァイオリン：ヴェロニカ・エーベルレ
ピアノ：フランソワ・フレデリック・ギイ

西村 朗／華開世界—オーケストラのための(2020) [第69回「尾高賞」受賞作品]

岸野末利加／チェロとオーケストラのための「What the Thunder Said／雷神の言葉」(2021)

[第69回「尾高賞」受賞作品・日本初演]

細川俊夫／ヴァイオリン協奏曲「ゲネシス(生成)」(2020) [NHK交響楽団／ハンブルク・フィル／香港シンフォニエッタ／広島交響楽団／ブラハ放送交響楽団／グラフェネック音楽祭共同委嘱作品・日本初演]

ミュライユ／「嵐の目」—ピアノとオーケストラのための幻想即興曲(2021) [NHK交響楽団／フランス放送フィル／BBCラジオ3／NDRエルプフィル共同委嘱作品・日本初演]

料金(税込)：一般 | S席3,500円 A席2,500円 B席1,500円

WEBチケットN響 特別料金 | S席3,000円 A席2,000円 B席1,000円

チケット：発売中

主催：NHK／NHK交響楽団

共催：公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

助成：公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団／公益財団法人 ロームミュージックファンデーション／公益財団法人 アフィニス文化財団

7/15金 7:00pm | N響「夏」2022

NHKホール

指揮：尾高忠明 ピアノ：小曽根 真

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

チャイコフスキー／交響曲 第4番 ヘ短調 作品36

料金(税込)：一般 | S席7,300円 A席5,300円 B席3,300円 C席2,100円

ユースチケット(25歳以下) | S席5,200円 A席3,800円 B席2,350円 C席1,500円

※定期会員は一般料金から10%割引

チケット：発売中

主催：NHK／NHK交響楽団

協賛：岩谷産業株式会社

7/31(日) 3:30pm | 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート～みんなNHKホールにあつまろう～

NHK ホール

指揮: 下野竜也 ヴァイオリン: ジュニア・ソリスト(オーディションで決定)&篠崎史紀* チェロ: 辻本 玲**

語り・うた: 三宅理恵**

ワーグナー／歌劇「ローエングリン」—第3幕への前奏曲

林 光／オーケストラのための童話「セロ弾きのゴーシュ」(宮沢賢治原作)**

ヨハン・シュトラウスII世／ウィーンの森の物語 作品325

[マロさん、N響といっしょに演奏しよう]パッパ／2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV1043—第1楽章*
ラヴェル／ボレロ

料金(税込): 一般 | S席5,200円 A席4,200円 B席3,000円 C席1,500円
25歳以下 | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 C席1,000円
小・中学生 | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円 C席500円
※定期会員はS・A・B各席の一般料金から10%割引

チケット: 発売中

主催: NHK / NHK交響楽団

※今回のN響ほっとコンサートで「楽器体験工房」はございません。

9/5(日) 7:00pm | 明電舎 presents N響名曲コンサート2022

サントリーホール

指揮: 沼尻竜典 ヴァイオリン: 金川真弓*

シベリウス／交響詩「フィンランディア」作品26

ブルッフ／スコットランド幻想曲 作品46*

ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

料金(税込): 一般 | SS席8,500円 S席6,500円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円
ユースチケット(25歳以下) | SS席6,000円 S席5,000円 A席3,500円 B席2,500円 C席1,500円
※定期会員は一般料金から10%割引

チケット: 発売中

主催: NHK交響楽団

特別協賛: 株式会社明電舎

※「25歳以下(ユースチケット)」はN響ガイドにお電話でお申し込みください。感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)。
※ 定期会員割引・先行販売はWEBチケットN響、N響ガイドのみの取り扱いとなります。
※ N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

※ やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。
※ チケットのご購入・ご来場の際には、N響ホームページに掲載の「感染症予防対策についてのご案内」(右記URLおよび右記リンク先)を必ずお読みください。



www.nhkso.or.jp/news/20200710_2.html

WEBチケットN響(手数料無料)

チケットのご予約は、スマートフォンやPCから、座席を選んで簡単にチケットが確保できる「WEBチケットN響」が便利です。



お問い合わせ:N響ガイド TEL 03-5793-8161 | ※営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください。

各地の公演

6/26回 2:00pm | N響×鈴木優人 at 調布国際音楽祭2022

調布市グリーンホール 大ホール

指揮: 鈴木優人 ヴァイオリン: 郷古 廉
バッハ(鈴木優人編)／パッサカリアとフーガ ハ短調 BWV582
メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
モーツァルト／交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」

主催: (公財)調布市文化・コミュニティ振興財団／調布市 お問い合わせ: (公財)調布市文化・コミュニティ振興財団 チケットCHOFU TEL (042) 481-7222

7/5回 7:00pm | 第19回東京国際音楽コンクール(指揮) 入賞デビュー・コンサート

東京オペラシティ コンサートホール

エルガー／序曲「南国」作品50(指揮: パーディー・ペイジエント)
ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」―「前奏曲と愛の死」(指揮: サミー・ラシッド)
シューマン／交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」(指揮: ジョゼ・ソアレス)

主催: MIN-ON お問い合わせ: MIN-ON インフォメーションセンター TEL (03) 3226-9999

7/10回 3:00pm | NHK交響楽団 郡山公演

けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) 大ホール

指揮: 沖澤のどか フルート: エマニュエル・パユ*
プーランク／バレエ組曲「牝鹿」
プーランク(バークリー編)／フルート・ソナタ(管弦楽伴奏版)*
フォーレ(オーペール編)／幻想曲 作品79*
ラヴェル／組曲「マ・メール・ロワ」、ボレロ

主催: (公財)郡山市民文化・学び振興公社[郡山市民文化センター指定管理者] お問い合わせ: けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) TEL (024) 934-2288

7/17回 6:00pm | 第24回NHK交響楽団 松山定期演奏会

愛媛県県民文化会館 メインホール

指揮: 尾高忠明 ピアノ: 小曾根 真
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
チャイコフスキー／交響曲 第4番 ヘ短調 作品36

主催: NHK松山放送局／愛媛新聞社／NHK交響楽団 お問い合わせ: NHK サービスセンター松山支局 TEL (089) 921-1159

7/24回 5:00pm | NHK交響楽団 東広島特別公演

東広島芸術文化ホール くらら 大ホール

指揮: 角田鋼亮 ピアノ: 小山実稚恵
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」、交響曲 第5番 ハ短調 作品67

主催: 東広島芸術文化ホール指定管理者 お問い合わせ: 東広島芸術文化ホールくららチケットセンター TEL (082) 426-5990

7/30(土) 4:00pm | フェスタ サマーミュージザ KAWASAKI 2022

ミュージザ川崎シンフォニーホール

指揮: 下野竜也 ヴァイオリン: 三浦文彰

バッハ(レーガー編) / コラール前奏曲「お人よ、おまえの罪に泣け」BWV622

ブルッフ / ヴァイオリン協奏曲 第1番ト短調 作品26

ベートーヴェン / 交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催: 川崎市 / ミュージザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) お問い合わせ: ミュージザ川崎シンフォニーホール TEL (044) 520-0200

8/20(土) 4:30pm | ロームクラシックスペシャル NHK交響楽団 京都特別演奏会

ロームシアター京都

指揮: 秋山和慶 チェロ: 宮田 大

ドヴォルザーク / チェロ協奏曲 口短調 作品104

ベートーヴェン / 交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催: (公財)ロームミュージックファンデーション お問い合わせ: エラート音楽事務所 TEL (075) 751-0617

9/1(日) 7:00pm | 真夏の音楽会 vol.5 大谷康子と楽しむ“イギリスの旅”

練馬文化センター 大ホール

指揮: 原田慶太楼 ヴァイオリン: 大谷康子*

ヘンデル(ハーティ編) / 組曲「王宮の花火の音楽」一序曲

エルガー / 愛のあいさつ 作品12*

ヴォーン・ウィリアムズ(ラルフ・グリーヴス編) / グリーンズリーヴスによる幻想曲

ブリテン / 青少年のための管弦楽入門 作品34(語り: 大谷康子)

メンデルスゾーン / 序曲「フィンガルの洞窟」作品26

ホルスト / 夜の歌 作品19-1*

N. ヘス / ラベンダーの咲く庭で*

エルガー / 行進曲「威風堂々」第1番 作品39-1

主催: 練馬区 お問い合わせ: 練馬区文化・生涯学習課文化振興係 TEL (03) 5984-1284

9/24(土) 2:00pm | NHK交響楽団 & ファビオ・ルイーゼ[指揮] 首席指揮者就任記念

所沢市民文化センター ミューズ アークホール

指揮: ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン: ジェームズ・エーネス

ベートーヴェン / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61

ブラームス / 交響曲 第2番 二長調 作品73

主催: (公財)所沢市文化振興事業団 お問い合わせ: ミューズチケットカウンター TEL (04) 2998-7777

9/25(日) 5:00pm | 開館25周年記念公演 ファビオ・ルイーゼ首席指揮者就任記念 NHK交響楽団 ヴァイオリン: ジェームズ・エーネス

ハーモニーホールふくい 大ホール

出演者・曲目は9月24日と同じ

主催: (公財)福井県文化振興事業団 お問い合わせ: ハーモニーホールふくいチケットセンター TEL (0776) 38-8282

10/1 **国** **5:00pm** | **市川市文化会館リニューアルオープン記念 NHK交響楽団 市川公演**

市川市文化会館 大ホール

指揮:アレクサンダー・リープライヒ ピアノ:小菅 優

モーツァルト/歌劇「フィガロの結婚」序曲

ベートーヴェン/ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」

モーツァルト/交響曲 第41番 ハ長調 K. 551「ジュピター」

主催:(公財)市川市文化振興財団 お問合せ:市川市文化会館 TEL (047) 379-5111

10/2 **国** **2:00pm** | **NHK交響楽団 アレクサンダー・リープライヒ(指揮) 小菅 優(ピアノ)**

埼玉会館 大ホール

出演者・曲目は10月1日と同じ

主催:(公財)埼玉県芸術文化振興財団 お問合せ:SAFチケットセンター TEL (0570) 064-939

10/9 **国** **3:00pm** | **第10回 NHK交響楽団 いわき定期演奏会**

いわき芸術文化交流館アリオス 大ホール

指揮:サツシャ・ゲッツェル ピアノ:牛田智大

グリーグ/「ペール・ギュント」組曲 第1番 作品46—「朝」

グリーグ/ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

シベリウス/交響曲 第2番 二長調 作品43

主催:いわき芸術文化交流館アリオス お問合せ:アリオスチケットセンター TEL (0246) 22-5800

11/3 **木祝** **5:00pm**

横浜みなとみらいホールリニューアル記念事業

井上道義指揮 NHK交響楽団 藤木大地(カウンターテナー)

横浜みなとみらいホール 大ホール

指揮:井上道義 カウンターテナー:藤木大地 オルガン:近藤 岳

ヨハン・シュトラウスII世/ワルツ「南国のぼら」作品388

マーラー/リュッケルトによる5つの歌

サン・サーンス/交響曲 第3番 ハ短調 作品78(オルガンつき)

主催:横浜みなとみらいホール((公財)横浜市芸術文化振興財団) お問合せ:横浜みなとみらいホールチケットセンター TEL (045) 682-2000

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

7/9 **土** **3:30pm**

出演者・曲目は7月10日と同じ

10/8 **土** **3:30pm**

出演者・曲目は10月9日と同じ

主催・お問合せ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 吉田 淳一
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介

賛助会員

・ 常陸宮	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ SCSK(株) 執行役員 社長 最高執行責任者 富麻隆昭
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ (株)NHK アート 代表取締役社長 小野木昌史
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長 黄木紀之
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 山田哲生
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼 CEO 勝木敦志	・ 伊東国際特許事務所 所長 伊東忠重	・ (株)NHK エデュケーションナル 代表取締役社長 田波宏視
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長 浅田剛夫	・ (一財)NHK エン지니어リングシステム 理事長 黄木紀之
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 松本浩司
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 高波博之	・ (株)ウイングツァー 代表取締役 福田健二	・ (学)NHK 学園 理事長 篠原朋子
・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ SMBC 日興証券(株) 代表取締役社長 近藤雄一郎	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長 根本拓也

- ・(一財)NHK サービスセンター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 大美慶昌
- ・(株)NHK文化センター
代表取締役社長 | 田中剛志
- ・(一財)NHK放送研修センター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティアーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOSホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・岡山英世
- ・花王(株)
代表取締役 社長執行役員
長谷部佳宏
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役社長 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役社長 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)
取締役名誉会長 | 茂木友三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 牧野和宏
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 山田晴彦
- ・黒澤隆史
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
紅村 康
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 | 小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 川俣幸宏
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 石井光太郎
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクス・ホールディングス
代表取締役社長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
取締役会長 | 相賀昌宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーホールディングス(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
取締役社長 | 喜多村樹美男
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫

- ・(株)セノン
代表取締役 | 小谷野宗靖
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
代表取締役社長 | 白川儀一
- ・第一三共(株)
代表取締役社長 | 眞鍋 淳
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)タク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一郎
- ・田原 昇
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 住田和嘉子
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 平松哲郎
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・(株)TOKAIホールディングス
代表取締役社長 | 鍋田勝彦
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・東急(株)
取締役社長 | 高橋和夫
- ・(株)東急文化村
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎

- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 中島信也
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子真吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
取締役会長 | 林 正道
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中山武之
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 今泉泰彦
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役員社長 | 辻 裕一
- ・日本ガイシ(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運送(株)
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役員社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・(株)日本デジコム
代表取締役 | 竹井裕二
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役員社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニックホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦

- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 井上福造
- ・(株)日立製作所
執行役員社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原慶三
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 井上樹彦
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ノクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・町田優子
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 高島 誠
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)
社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)
執行役員社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(学)武蔵野音楽学園
理事長 | 福井直敬

- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
取締役社長 | 三井田 健
- ・(株)目の眼
代表 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄

- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 押木正人
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 坂元 隆

- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
 - ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
 - ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
 - ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
 - ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 中野健次
- (五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいたしており、当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『「第9」演奏会プログラム』等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL: 03-5793-8120

ご寄付の御礼

この度の新型コロナウイルス感染症の流行に際し、下記の法人より日本オーケストラ連盟を通じて、ご寄付をいただきました。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

ご支援に心より御礼を申し上げます。

NHK交響楽団

首席指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：白井 圭

ゲスト・アシスタント・コンサートマスター：郷古 廉

第1ヴァイオリン

青木 調
宇根京子
大鹿由希
□倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
○山岸 努
○横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮臨太郎
☆森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
矢津将也
山田慶一
横山俊朗

米田有花

村尾隆人

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
三戸正秀
中 実穂
○西山健一
○藤村俊介
宮坂拓志
村井 将
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
☆市川雅典
☆西山真二
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
佐川裕昭
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真步
菅原 潤
中村淳二

オーボエ

◎青山聖樹
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
和川聖也
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Paavo Järvi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

First Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Kei Shirai

Guest Assistant Concertmaster: Sunao Goko

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ☆ Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

- Ryuto Murao

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Masahide Sannohe
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- ☆ Masanori Ichikawa
- ☆ Shinji Nishiyama
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Hiroaki Sagawa
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Jun Sugawara
- Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Satoki Aoyama
- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- Seiya Wakawa
- # Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Kazuko Nomiyama

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kukimoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa

Tomoki Ando
Eiji Yamamoto

Trombones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Toru Uematsu
- ◎ Shoichi Kubo

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemichi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga
Daisuke Kurokawa

Librarian

Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

A

Concert No.1959

Tokyo Metropolitan Theatre

June

11 (Sat) 6:00pm

12 (Sun) 2:00pm

conductor

Stéphane Denève

mezzo soprano

Stéphanie d'Oustrac*

concertmaster

Ryotaro Ito

Paul Dukas

La Péri, poème dansé

(With its appended Fanfare) [22']

Maurice Ravel

*Schéhérazade** [18']

I Asie

II La flûte enchantée

III L'indifférent

— intermission (20 minutes) —

Claude Debussy

Prélude à l'après-midi d'un faune [10']

Florent Schmitt

La tragédie de Salomé,
ballet suite Op. 50 [27']

[Part I]

I Prélude

II Danse des perles

[Part II]

III Les enchantements sur la mer

IV Danse des éclairs

V Danse de l'effroi

Under the auspice of: Toshima City

Artist Profiles

Stéphane Denève, conductor



© Genevieve Caron

French conductor Stéphane Denève is currently Music Director of the St. Louis Symphony Orchestra and Music Director of the Brussels Philharmonic. He was born in 1971, and after pursuing studies as an assistant to Georg Solti at the Orchestre de Paris, Georges Prêtre at the Palais Garnier, and Seiji Ozawa at the Saito Kinen Festival, he became Music Director of the Royal Scottish National Orchestra,

Chief Conductor of the Radio-Sinfonieorchester Stuttgart des SWR, and Principal Guest Conductor of The Philadelphia Orchestra before taking up the current positions. He frequently

makes guest appearances with other leading orchestras including the Royal Concertgebouw Orchestra, the Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, the New York Philharmonic and The Cleveland Orchestra. His first collaboration with the NHK Symphony Orchestra was in 2015, and this is his third appearance after 2019.

Stéphanie d'Oustrac, mezzo soprano



Stéphanie d'Oustrac, France's leading mezzo-soprano, is blessed with an emotional, expressive and deep voice, and overwhelming acting skills with a thorough understanding of the roles she plays. In particular, she has a wide repertoire of French operas, ranging from baroque operas to modern and contemporary operas and songs. She was born in Rennes, and aspiring to become an opera singer in her mid-teens, studied at the Conservatoire national supérieur musique et danse de Lyon. After she was discovered by William Christie, a Baroque opera specialist, she received numerous opportunities to appear in Baroque opera performances. In 2010, she achieved great success by singing the title role of Carmen at the Opéra de Lille, and since then, she has been performing at opera houses around the world.

[Stéphane Denève by Yoichi Iio, music journalist, Stéphanie d'Oustrac by Hiroko Kato, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Paul Dukas (1865–1935)

La Péri, poème dansé (With its appended Fanfare)

“A beautiful sunset mistaken for a dawn” – Debussy wrote this cutting but pertinent comment about Wagner (1813–1883), as the German composer was worshiped as the supreme innovator by his followers called “Wagnerians” around 1900. Paris then witnessed a major shift in classical music history from the late-Romanticism, especially characterized by Wagner’s extreme chromaticism, to the modernism pioneered by Debussy. Almost all French topflight composers of this period couldn’t skirt the problem of how to absorb and/or break away from Wagner’s work. And Dukas was one of them.

In his major work *The Sorcerer’s Apprentice* (1897), Dukas makes skillful use of Wagner’s trademarks, leitmotifs (recurrent melodies associated with certain character, emotion, setting, and so forth) and gorgeous instrumentation. Though the French composer also adopted some specific idioms of his friend Debussy, notably the whole tone scale, Dukas didn’t really belong to either camp to pursue a modern French music of his own.

His one-act ballet *La Péri* was premiered in 1912 in Paris. The opening brass fanfare was added by Dukas himself afterward as an overture. Based on a Persian mythology, the ballet has only two dancers as the king Iskender and the female fairy Peri. Wandering in search of

immortality, Iskender reaches the serene farthest land where he comes upon the Peri asleep with an emerald lotus, the Flower of Immortality. He steals it. She bewitches him with her dance to have it back. At the end when she vanishes away with the flower, he apprehends his own mortality. In this last orchestral work of Dukas, his regards to two seemingly irreconcilable composers coexist. In fact, here we find proficient leitmotif technique, Wagnerian late-Romantic harmony and Debussian modern-French orchestration which combine to describe precisely the flow of the story. For example, an ample tuneful leitmotif sung mainly by strings represents the Flower of Immortality, important to the drama.

Maurice Ravel (1875–1937)

Schéhérazade

Alongside *La Péri* and *La tragédie de Salomé* (detailed later), Ravel's song cycle *Schéhérazade* (1903) is an example of the Orientalism prevailing in Paris at the time. The French artists' adoration for the Orient was enhanced by the Paris Universal Expositions, and some of them visited the east in person. *Schéhérazade* sets contemporary poems by Tristan Klingsor – incidentally, this French poet pen-named himself after Wagner's operas. Klingsor was inspired by *the One Thousand and One Nights (the Arabian Nights)*, where Scheherazade saves her own life by relating entertaining tales to the murderous Persian Sultan Shahriar. Ravel had already written the orchestral overture *Schéhérazade* (1898) which remained unpublished in his lifetime likely due to its unfavorably-received premiere. Considering this, the new version may have given the composer revenge.

A set of three songs with orchestra, *Schéhérazade* shows Ravel's nonpareil sensibility to colors worthy of the "Magician of Orchestration." Here his instrumentation with multicolor winds and percussion (including a gong) sounds shimmering and voluptuous prompted by exotic eastern-like intervals and melismatic melodies. The first song *Asie* begins with the call for Asia in the broad sense. The text in the first person repeats "Je voudrais m'en aller/voir... (I'd like to go/see)" with his/her growing longing for fantasy eastern places. In the next *La flûte enchantée (The Magic Flute)*, a servant girl under a tree hears a flute tune "like a mysterious kiss" played by her lover at a distance. The languid third piece *L'indifférent (The Indifferent One)*, sung with a static melody, refers to captivating appearances of a "young stranger" who passes by "my doorway" showing indifference.

Claude Debussy (1862–1918)

Prélude à l'après-midi d'un faune

Debussy launched his career as a Wagnerian. Only after his 1889 visit to Bayreuth awoke him to the limits of the German composer's musical language, he came to pursue modernity as an antidote for the Wagnerism and Romanticism. One of the answers Debussy made was the utilization of whole tone and pentatonic (five-note) scales and medieval church modes to produce tonal ambiguity, for which he also violated major rules of conventional harmonic practice.

First performed in 1894 in Paris, the symphonic poem *Prélude à l'après-midi d'un faune (Prelude to the Afternoon of a Faun)* is considered the breakthrough for Debussy's quest and a revolutionary turning point for classical music history. It is a free musical illustration of

Stéphane Mallarmé's sensual poem *L'Après-midi d'un faune* (*The Afternoon of a Faun*), where the mythical god of the woods, waking from his nap, goes back to sleep after chasing nymphs. The opening melismatic solo is entrusted to flute, as the faun is pan flute player. This languid melody recurs several times to unite Debussy's dreamy prelude.

Florent Schmitt (1870–1958)

***La tragédie de Salomé*, ballet suite Op. 50**

Junior to Debussy by eight years, Schmitt was born in northeastern France near the German border before studying composition under Massenet and Fauré in Paris. Although a “pedigree” French composer by this educational background, Schmitt's music doesn't sound purely French just like his last name. That is, not to mention the influence he had from Debussy, Schmitt owed a certain deal to German Romanticism, particularly Wagner.

At the time, the biblical story of *Salome* inspired diverse artists in Paris. Following a series of performances of R. Strauss' opera *Salome* there in 1907, the director of the Théâtre des Arts in Paris approached Schmitt for a less decadent ballet version. For its small pit, Schmitt composed *La tragédie de Salomé* (*The Tragedy of Salome*) for a chamber orchestra the same year.

The condensed suite in two parts was prepared for full orchestra by the composer for concert performance. Dedicated to Stravinsky who admired Schmitt, this version was premiered in 1911 in Paris. [Part 1] Growling low strings commence the exotic *Prélude* which describes a terrace of the King Herod's palace on the Dead Sea. It is followed by the airy *Danse des perles* (*Dance of Pearls*) where Salome (stepdaughter and niece of Herod), wearing jewels, dances. [Part 2] Opened by a low snaky melody, the introduction leads to the glinting *Les enchantements sur la mer* (*Magic of the Sea*), where Schmitt's masterly orchestration with two harps depicts water sending forth mysterious lights. Herod faces his sinful desire for Salome and hears a fearful voice from the abyss. Salome appears and starts to dance. Then *Danse des éclairs* (*Dance of Lightning*) comes next. Only flashes of lightning illumine darkness. As the prophet John the Baptist dresses her, Herod furiously condemns him to death and his severed head returns. Salome takes it in triumph, but she, hearing the voice of the dead prophet, throws the head into sea. The water turns blood red. In the wild *Danse de l'effroi* (*Dance of Terror*), storm and thunderbolt strike the sea and land to crush Salome. This finale curiously anticipates the epoch-making *Le sacre du printemps* (*Rite of Spring*) (1913) by the dedicatee especially in terms of rhythm.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No.1961

Suntory Hall

June

22(Wed) 7:00pm

23(Thu) 7:00pm

conductor

Masato Suzuki

violin

Sunao Goko

concertmaster

Fuminori Maro Shinozaki

Johann Sebastian Bach /
Masato Suzuki
Passacaglia and Fugue C Minor
BWV582 [14']

Benjamin Britten
Violin Concerto Op. 15 [31']

I Moderato con moto

II Vivace

III Passacaglia: Andante lento

(un poco meno mosso)

— intermission (20 minutes) —

Wolfgang Amadeus Mozart
Symphony No. 41 C Major K. 551,
***Jupiter* [31']**

I Allegro vivace

II Andante cantabile

III Menuetto: Allegretto – Trio

IV Molto allegro

Artist Profiles

Masato Suzuki, conductor



© Marco Borggreve

Masato Suzuki, who, in recent years, has devoted himself to conducting orchestras, will return to the podium of the NHK Symphony Orchestra after 2019 and 2021. Previously, however, he worked with the orchestra in 2018 and 2019 as an organist.

He was born in The Hague, the Netherlands, and studied composition at the Tokyo University of the Arts, early music at the graduate school, and then at the Royal Conservatory of the Hague he completed the master's course of organ with first-class honors degree and improvisation with cum laude. He also studied harpsichord at the Conservatory of Amsterdam. He has been Principal Conductor of the Bach Collegium Japan since September 2018, and in 2020, he became Associate Conductor & Creative Partner of the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra.

B

22 & 23 JUNE 2022

With versatile talent, he serves as Executive Producer of the Chofu International Music Festival, while also being engaged himself in composition and stage direction.

Sunao Goko, violin



Still at the age of 29, Sunao Goko has already had a long career after making his debut in 2007. Being appointed by the NHK Symphony Orchestra as Guest Assistant Concertmaster on April 1st this year, he is one of Japan's leading young violinists. He studied in Vienna for an extended period of time. Even in the past one year alone, he was continuously engaged as a soloist to perform hard to deal with

concertos including those by Schumann, Berg, Korngold, leaving a vivid impression to the audiences. As indicated by his achievements in receiving the Contemporary Music Award when he won the Tibor Varga International Violin Competition in Switzerland in 2013, he equally excels in interpretation of contemporary works.

[Masato Suzuki by Takaakira Aosawa, music critic, Sunao Goko by Takuo Ikeda, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Johann Sebastian Bach (1685–1750) / Masato Suzuki (1981–)

Passacaglia and Fugue C Minor BWV582

Understanding the passacaglia and fugue forms is key to grasping today's program. Both were essential composition styles for baroque music that our multitalented Masato Suzuki is especially skilled at. Usually in triple time with a solemn character, passacaglia is a series of uninterrupted variations over a ground bass (a theme persistently repeated in the low voice). Fugue, written in two or more independent voices, is considered a most evolved polyphonic music. It has an intricate schematic form where some subjects (themes) are stated and then developed with a minute, imitative technique.

The young Bach already showed a stroke of genius when he combined the two forms for his organ solo piece BWV582. Though there are various views, he presumably composed it around 1710, namely in the early days of the period when he was a court organist at Weimar. The first half of BWV582 is a grave passacaglia indicative of Bach's famous musical Francophilia as he created its eight-bar ground bass extending a four-bar theme from *the Christe (Trio en passacaille) of the Messe du deuxième ton* by the French composer and organist André Raison (before 1650–1719). Bach's ground bass is declared by the pedal alone at the beginning. It is followed by the twenty variations full of inspiration, which then lead directly to the fugue in four voices. The main subject and its countersubject, stated at the same time to open the fugue, are both derived from the passacaglia's ground bass. Bach thus interrelated the two sections with each other with meticulous care.

Suzuki's arrangement is sure to be an enjoyable take on this masterpiece for the audience.

Violin Concerto Op. 15

Unlike his contemporaries such as John Cage (1912–1992), Britten kept his distance from avant-garde and experimental pursuits, that is the mainstream of the 20th-century classical music world. He instead updated the conventional tonal language relying often on traditional forms, to leave us truly original works.

Born in England, Britten was absent from Europe between 1939 and 1942 to avoid World War II. His temporary residences were in the North America. Dating from this emigratory period, his Concerto for Violin was completed in the summer 1939 in Canada and premiered the next year in New York. Britten himself slightly revised it later a few times.

This concerto with a grand passacaglia finale is in three movements performed without pause. The first movement begins with timpani's three strokes getting louder gradually, answered by cymbal, before the solo violin sings a soaring bittersweet melody. The middle movement, marked *Vivace* (vivaciously), is a turbulent and sometimes folkloric scherzo where a large crescendo prepares its extended cadenza (violin's virtuosic solo without orchestra). While the soloist concludes the cadenza singing the soaring melody as a reminiscent of the opening movement, trombones overlap it intoning the passacaglia's ground bass. Then the final movement unfolds eventful variations of contrasting characters, a most notable of which is a march brought by the exceptional duple meter of this modern passacaglia.

Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791)

Symphony No. 41 C Major K. 551, *Jupiter*

Completed in 1788, the Jupiter is Mozart's largest and last symphony with a glorious fugal finale. This byname, not by the composer himself, doesn't have any programmatic implication but suggests the work's monumental scale and dignified magnificence compared to Jupiter (Zeus), an ancient Roman god holding supremacy over all deities.

The opening sonata movement immediately announces the first theme composed of spirited ascending motif and flowing melody. The balmy second theme initially appears in G major with violins. The next slow movement, headed "cantabile (singly)," is opened by strings utilizing mutes, a device to make a softer sound. This noble, lyrical music in triple meter with dotted rhythms reminds us of saraband, a dance form preferred by Bach. The third movement is a graceful minuet. Its central trio section foretells, though in a minor key, the main figure of the coming grand finale. In the fourth movement, Mozart brilliantly merges baroque fugue into classical sonata form. It is started with and built upon the so-called "Jupiter theme," a four-note (C–D–F–E) figure originally from a plainchant. After the first theme group is introduced in brief, the strings in four voices suddenly begin a highly elaborate fugue (which is, strictly speaking, a fugato as it's not an independent fugue piece). The spectacular coda closes the symphony recalling the "Jupiter theme" and other main motifs.

PROGRAM

Ikebukuro

C

Concert No.1960

Tokyo Metropolitan Theatre

June

17(Fri) 7:30pm

18(Sat) 2:00pm

conductor

Stéphane Denève | for a profile of Stéphane Denève, see p. 47

organ

Olivier Latry

concertmaster

Kei Shirai

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Ikebukuro Program C]

Friday 17th from 6:45pm / Saturday 18th from 1:15pm

Masamichi Yokoshima (vn.), Yuji Yamada (va), Ryoichi Fujimori (vc.)

Gershwin / Stegner Three Preludes arranged for String Trio

* You may enter and leave as you please during the performance. * Enjoy chamber music from your own seat.

Francis Poulenc

Les biches, ballet suite [16']

I Rondeau

II Adagietto

III Rag-mazurka

IV Andantino

V Final

Francis Poulenc

Organ Concerto G Minor [24']

George Gershwin

An American in Paris [16']

- This concert will be performed with no intermission.

Under the auspice of: Toshima City

Artist Profile

Olivier Latry, organ



Olivier Latry was born in Boulogne-sur-Mer in France in 1962, and after studying at music schools, he became Principal Organists of the Cathedral of Notre-Dame in Paris at the age of 23. Since 1995, he has been teaching organ as a professor at the Conservatoire National Supérieur de Musique de Paris, his alma mater.

He quickly rose to prominence in performing works of Bach and Messiaen, and gained fame as an expert of French repertoire, at the same time, he won acclaim as a master of improvisation. He has been performing as a soloist with leading orchestras

around the world.

This is his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra.

[Olivier Latry by Natsuki Sawatani, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Francis Poulenc (1899–1963)

Les biches, ballet suite

Born in the City of Lights, Poulenc is worthy of being called a true Parisian composer of Paris for his lucid, refined, collected, sometimes witty and sometimes profound style.

He wrote the ballet music *Les biches* in 1923 in his mid-twenties as his first orchestral work. The French title literally means “The Does (female deer),” but here it indicates pretty coquettish women. The work was commissioned by the impresario Sergei Diaghilev and premiered in 1924 by his dance company, Ballets Russes. To compose nine numbers including overture and three choral pieces, the young composer derived inspiration from paintings by Marie Laurencin who designed the scenery and the costumes for this ballet. In one act and eight scenes, it has no precise plot but three young men innocently flirt with sixteen young lovely women on a hot summer afternoon. Indeed, Poulenc aimed to create a modern version of “fête galante,” an 18-century painting genre where dressed-up aristocrats disport themselves amorously in a pastoral setting. Later in 1940, he extracted five orchestral numbers to arrange the suite for concert performance keeping the original freshness and lightness of sound.

Francis Poulenc

Organ Concerto G Minor

This Concerto is thought to have been written in 1934–1938. A notable life event Poulenc had in these inter-war years was the recovery of childhood Catholic faith. Born a pious father’s son, the composer had been careless about the Christianity for a good while. He then regained the belief in 1936 when, soon after his friend’s tragic death, he saw a black virgin statue in Rocamadour, a place of pilgrimage in France. This “conversion” may have influenced more or less his ongoing composition for the most religious instrument.

The Concerto was a commission from Princess Edmond de Polignac, a wealthy musical patron. It was first performed privately in 1938 at her salon in Paris by the legendary organist and composer Maurice Duruflé, before he assumed the soloist again for the public premiere the next year. The reason why Poulenc omitted the winds from this work for organ, string orchestra and timpani was obviously to maximize the timbral potential of the solo instrument, as organists can choose and combine stops (components to control the air flow into pipes) to produce myriads of different colorful sounds. This single-movement concerto is highly diversified in terms of tempo, volume, style, sound color and mood.

An American in Paris

A true New Yorker of New York, Gershwin established a genre called “Symphonic Jazz” with his *Rhapsody in Blue* (1924) for piano and orchestra by fusing European classical music with jazz.

Another significant example of this genre is *An American in Paris*. It enables us to relive the diverse impressions that “An American” had while seeing the Parisian sights in the 1920s. Gershwin completed this witty piece in November 1928, eight months after his third trip to Paris. The orchestration is marked by the utilization of saxophones (relatively new instruments at the time), colorful percussion (including celesta) and four taxi horns. The composer purchased these taxi horns near the Arch of Triumph during his above-mentioned stay in France, to bring them back to his home for the work’s premiere in December 1928 in New York. This symphonic poem with urban atmosphere is roughly divided into three parts (A–B–A). The cheerful, up-tempo section A portrays the hustle and bustle of the big city of Paris and the slow “bluesy” section B evokes homesickness, thus crossing the *Années folles* (crazy years) of France and the Jazz Age of the United States. The rhythmical theme which opens the work represents the stroll of the curious tourist.

The Subscription Concerts Program 2022–23

2022
09

A	Concert No. 1962	Chief Conductor Fabio Luisi Inauguration Concert Verdi <i>Messa da requiem</i>	Ordinary	Youth
	September 10 (Sat) 6:00pm 11 (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Hibla Gerzmava, soprano Olesya Petrova, mezzo soprano René Barbera, tenor Kwangchul Youn, bass New National Theatre Chorus, chorus	S 12,000 A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,000 E 3,300	S 6,000 A 5,000 B 4,000 C 3,200 D 2,500 E 1,600
	NHK Hall			
B	Concert No. 1964	Chief Conductor Fabio Luisi Inauguration Concert Beethoven Violin Concerto D Major Op. 61 Brahms Symphony No. 2 D Major Op. 73	Ordinary	Youth
	September 21 (Wed) 7:00pm 22 (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor James Ehnes, violin	S 9,800 A 8,400 B 6,700 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
	Suntory Hall			
C	Concert No. 1963	Chief Conductor Fabio Luisi Inauguration Concert R. Strauss <i>Don Juan</i> , symphonic poem Op. 20 R. Strauss Oboe Concerto D Major R. Strauss Suite from the Opera <i>Der Rosenkavalier</i>	Ordinary	Youth
	September 16 (Fri) 7:30pm 17 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Eva Steinaa, oboe	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
	NHK Hall			

2022
10

A	Concert No. 1965	Mahler Symphony No. 9 D Major	Ordinary	Youth
	October 15 (Sat) 6:00pm 16 (Sun) 2:00pm	Herbert Blomstedt, conductor	S 9,800 A 8,400 B 7,000 C 5,400 D 4,400 E 2,800	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800 E 1,400
	NHK Hall			
B	Concert No. 1967	Grieg Piano Concerto A Minor Op.16 Nielsen Symphony No. 3 Op. 27, <i>Sinfonia espansiva</i>	Ordinary	Youth
	October 26 (Wed) 7:00pm 27 (Thu) 7:00pm	Herbert Blomstedt, conductor Olli Mustonen, piano	S 9,800 A 8,400 B 7,000 C 5,400 D 4,400	S 4,500 A 4,000 B 3,300 C 2,500 D 1,800
	Suntory Hall			
C	Concert No. 1966	Schubert Symphony No. 1 D Major D. 82 Schubert Symphony No. 6 C Major D. 589	Ordinary	Youth
	October 21 (Fri) 7:30pm 22 (Sat) 2:00pm	Herbert Blomstedt, conductor	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
	NHK Hall			

2022
11

A	Concert No. 1968	Ifukube <i>Sinfonia Tapkaara</i> Shostakovich Symphony No. 10 E Minor Op. 93	Ordinary	Youth
	November 12 (Sat) 6:00pm 13 (Sun) 2:00pm	Michiyoshi Inoue, conductor	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700 E 2,000	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500 E 1,000
	NHK Hall			
B	Concert No. 1970	The 150th Anniversary of Vaughan Williams's Birth Vaughan Williams Five Variants of <i>Dives and Lazarus</i> Mendelssohn Violin Concerto E Minor Op. 64 Vaughan Williams Symphony No. 5 D Major	Ordinary	Youth
	November 23 (Wed) 7:00pm 24 (Thu) 7:00pm	Leonard Slatkin, conductor Ray Chen, violin	S 8,900 A 7,400 B 5,800 C 4,700 D 3,700	S 4,000 A 3,500 B 2,800 C 2,100 D 1,500
	Suntory Hall			
C	Concert No. 1969	Copland <i>Appalachian Spring</i> , ballet (complete) Copland <i>Rodeo</i> , ballet (complete)	Ordinary	Youth
	November 18 (Fri) 7:30pm 19 (Sat) 2:00pm	Leonard Slatkin, conductor	S 7,400 A 6,500 B 5,200 C 4,200 D 3,200 E 1,600	S 3,500 A 3,000 B 2,400 C 1,900 D 1,400 E 800
	NHK Hall			

A NHK Hall
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B Suntory Hall
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C NHK Hall
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2022
12

A Concert No. 1971
December
3 (Sat) 6:00pm
4 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Wagner *Wesendonck Lieder*
Bruckner Symphony No. 2 C Minor (First Version / 1872)

Fabio Luisi, conductor
Mihoko Fujimura, mezzo soprano

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800
E 2,800	E 1,400

B Concert No. 1973
December
14 (Wed) 7:00pm
15 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Glinka *Ruslan and Lyudmila*, opera – Overture
Rakhmaninov Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18
Dvořák Symphony No. 9 E Minor Op. 95, *From the New World*

Fabio Luisi, conductor
Hisako Kawamura, piano

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. 1972
December
9 (Fri) 7:30pm
10 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Mozart Symphony No. 36 C Major K. 425, *Linz*
Mendelssohn Symphony No. 3 A Minor Op. 56, *Scottish*

Fabio Luisi, conductor

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,800	E 800

2023
01

A Concert No. 1974
January
14 (Sat) 6:00pm
15 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Brahms Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83
Beethoven Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60

Tugan Sokhiev, conductor
Haochen Zhang, piano

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500
E 2,000	E 1,000

B Concert No. 1976
January
25 (Wed) 7:00pm
26 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Bartók Viola Concerto
Ravel *Daphnis et Chloé*, suite Nos. 1 & 2
Debussy *La mer*, three symphonic sketches

Tugan Sokhiev, conductor
Amihai Grosz, viola

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500

C Concert No. 1975
January
20 (Fri) 7:30pm
21 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Rakhmaninov *The Rock*, fantasy, Op. 7
Tchaikovsky Symphony No. 1 G Minor Op. 13, *Winter Dreams*

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,600	E 800

2023
02

A Concert No. 1977
February
4 (Sat) 6:00pm
5 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

Hisatada Otaka Cello Concerto A Minor Op. 20
Panufnik *Katyrí Epitaph*
Lutosławski Concerto for Orchestra

Tadaaki Otaka, conductor
Dai Miyata, cello

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500
E 2,000	E 1,000

B Concert No. 1979
February
15 (Wed) 7:00pm
16 (Thu) 7:00pm

Suntory Hall

Dvořák *Hussite Overture*, Op. 67
Szymanowski Symphony No. 4 Op. 60, *Symphonie concertante**
Brahms Symphony No. 4 E Minor Op. 98

Jakub Hruša, conductor
Piotr Anderszewski, piano*

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500

C Concert No. 1978
February
10 (Fri) 7:30pm
11 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Bernstein Symphonic Dances from *West Side Story*
Rakhmaninov Symphonic Dances Op. 45

Jakub Hruša, conductor

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,600	E 800

2023
04

A	Concert No. 1980	R. Strauss Symphonic Fragments from <i>Josephs Legende</i> R. Strauss <i>An Alpine Symphony</i> Op. 64	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400
	April 15 (Sat) 6:00pm 16 (Sun) 2:00pm	Paavo Järvi, conductor	
B	Concert No. 1982	Sibelius Symphony No. 4 A Minor Op. 63 Rakhmaninov Rhapsody on a Theme of Paganini Op. 43* Tchaikovsky <i>Francesca da Rimini</i> , Symphonic fantasy after Dante, Op. 32	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	April 26 (Wed) 7:00pm 27 (Thu) 7:00pm	Paavo Järvi, conductor Marie-Ange Nguci, piano*	
C	Concert No. 1981	Roussel Sinfonietta for String Orchestra Op. 52 Poulenc Sinfonietta Ibert Divertissement for Chamber Orchestra	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
	April 21 (Fri) 7:30pm 22 (Sat) 2:00pm	Paavo Järvi, conductor	

2023
05

A	Concert No. 1983	Rakhmaninov Songs Op. 34 – <i>The Raising of Lazarus</i> (arr. Shimono), <i>Vocalise</i> Gubaidulina <i>Offertorium</i> * Dvořák Symphony No. 7 D Minor Op. 70	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	May 13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm	Tatsuya Shimono, conductor Baiba Skride, violin*	
B	Concert No. 1985	Haydn Symphony No. 82 C Major Hob. I-82, <i>The Bear</i> Mozart Horn Concerto No. 3 E-flat Major K. 447 Beethoven Symphony No. 6 F Major Op. 68, <i>Pastoral</i>	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
	May 24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm	Fabio Luisi, conductor Nobuaki Fukukawa, horn	
C	Concert No. 1984	Saint-Saëns Piano Concerto No. 5 F Major Op. 103, <i>The Egyptian</i> Franck Symphony D Minor	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
	May 19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Pascal Rogé, piano	

2023
06

A	Concert No. 1986	Prokofiev <i>The Love for Three Oranges</i> Op. 33bis, symphonic suite Prokofiev Piano Concerto No. 2 G Minor Op. 16 Casella Symphonic Fragments from <i>La donna serpente</i> [Japan Première]	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
	June 10 (Sat) 6:00pm 11 (Sun) 2:00pm	Gianandrea Noseda, conductor piano: tba	
B	Concert No. 1988	Bach / Respighi <i>Three Chorales</i> Respighi <i>Concerto gregoriano</i> * Rakhmaninov Symphony No. 1 D Minor Op. 13	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500
	June 21 (Wed) 7:00pm 22 (Thu) 7:00pm	Gianandrea Noseda, conductor Sayaka Shoji, violin*	
C	Concert No. 1987	Shostakovich Symphony No. 8 C Minor Op. 65	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
	June 16 (Fri) 7:30pm 17 (Sat) 2:00pm	Gianandrea Noseda, conductor	

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

古典派から後期ロマン派のソナタを綴る

R. シュトラウス チェロとピアノのためのソナタ 藤村 俊介_{Vc} 星野 英子_P

ブラームス:ピアノとチェロのためのソナタ 第1番 【CD】MM-4508
ベートーヴェン:ピアノとチェロのためのソナタ 第4番、他 ¥3,300

N響チェロ奏者として、またソリストとして高い人気を誇る藤村俊介と、長年ベーター・シュミードルを交えたトリオなどでアンサンブルを組んできた、ピアニストの星野英子による作品集。古典派から後期ロマン派までのチェロとピアノの佳品を色彩豊かに綴る注目の新録音。

6.24
発売予定



鮮やかなギターと優美なオーボエの歌

白鳥の歌 オーボエとギターの作品集 池田 昭子_{Ob} 福田 進一_G

ナポレオン・コスト:ロマンズ、カンティレーナ、高地
カール・ビルス:オーボエとギターのためのソナチネ
シューベルト(コスト編):セレナーテ、舟歌、他



【CD】MM-4069 / ¥3,300

お互いの持ち味を引き立て、抜群に相性の良い響きを聴かせてくれる、ダブルリードと撥弦楽器による二重奏。オリジナル作品を軸に、池田昭子によるオーボエとイングリッシュホルンの甘美な歌が冴える歌曲を交えてのプログラム。世界的ギタリスト、福田進一との注目のコラボレーションです。

しなやかな響き 颯爽とした無伴奏

J.S. バッハ 無伴奏チェロ組曲 木越 洋

【CD】
MM-4086-87(2CD) / ¥4,400



屈指の奏者、木越洋による待望の「バッハ:無伴奏チェロ組曲」。同作品の全曲演奏会を20数年に渡り毎年開催、通算では100回を優に越えるという。長きにわたり作品と対峙してきた奏者だからこそ、組曲それぞれのイメージ溢れる深い解釈は、作品の新たな側面を示し、聴く者を魅了します。また、濁りの無い響きを求め、倍音を意識した独自の細やかなチューニングに取り組む木越。そのニュアンス豊かな響きを高解像度録音で録えました。



ハイレゾDXD384で聴くクラシック mora ×マイスター・ミュージック →



MEISTER MUSIC
<http://www.meister-music.com>

DXD384kHz
ハイレゾ・レコーディング

マイスター・ミュージックは 邦人初のディプロム・トーンマイスター主宰
高音質ハイレゾ録音&マスタリングのクラシック音楽専門レーベルです

ともに創る未来へ。- Challenge SEITOKU -

かけがえのない学生時代、思いきり成長したい。

培った力を、誰かの幸せのために社会で役立てたい。

その意欲を、変化が加速する新時代に活躍する力へ。

自由で、多様で、限りない、学びの世界で学問しよう。

自分史上最高をも、超える挑戦を。

「新しい価値を創造する」学際的なプログラム

Field Linkage (フィールドリンケージ)

学部・学科を超えた学際的な学びや、社会との連携によるプログラムが始動。
多面的・多角的な視点や問題解決能力を養い、新たな価値を創造する力を
育みます。

新時代に生きるリーダーシップを備え、新しい価値を創造し提案できる女性へ

Business Field Linkage (ビジネスフィールドリンケージ)

高度な専門性を実社会で活かすために、ビジネスの最前線やDX・AIの活用を
実践的に学ぶプログラムが本格始動。

先見的な視点とスキル、協働的リーダーシップを発揮し、課題解決へと導く、
新時代の女性リーダーを育成します。

新しい時代に挑戦する「教育学部」がスタート！

新時代を生きる人を育てる 女性総合大学

実就職率
全国女子大学

1位
の教育力

(96.3% 2021年卒業生)
※卒業生500人以上の女子大実就職率
2021年大学通信調べ



SEITOKU

自立するチカラをはぐくむ女性総合大学。

聖徳大学

聖徳大学短期大学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111(大代表)
<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学
音楽学部(女子)

聖徳大学大学院
音楽文化研究科
【博士前期・後期課程】(共学)

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校
光英 VERITAS 高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英 VERITAS 中学校
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園
聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園
聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー (SOA)

ME NO ME SINCE 1977 目の眼



古美術・骨董月刊誌「目の眼」

特集◇酒器をたずねて

時代と人を映す盃

最新号 WEB 無料公開中

毎月15日発売 1,320円 (税込)



6月号特集より

雨の日の日曜日は、



TN-4D-SE/WA (ウォルナット)

雨の休日、部屋で過ごすのは退屈ですか？

雨の日なら雨音に耳を傾けて、思い出にひたるのもいいものです。

だったら、あの頃のレコードも聴いてみましょう。

モノクロの遠い記憶が色鮮やかに彩られて、あの頃の自分に会えるかもしれません。

昔見た映画、みんなで歌った曲、旅の思い出、そして出会い。

いつもそこには音楽がある。

ピアノブラック



TN-4D-SE

ダイレクトドライブ・ターンテーブル

チェリー



TN-3B-SE

ベルトドライブ・ターンテーブル

ウォルナット



TN-400BT-SE

Bluetooth®搭載ターンテーブル



掲載製品は全てオープンプライスです。

製品の詳細はこちらのQRコードからまたは teac.jp/jp

TEAC

ティアックは1953年創業の日本のオーディオブランドです。

N響

N響オーチャード定期 2022/2023シリーズ

15:30開演 (14:30開場)

速報!

コンサートホールで世界旅行! 2nd Season

大好評の<世界旅行>、新たな旅へのご期待に応え、2ndシーズンにご案内!
まだ見ぬ国々を中心にラインアップし、
コロナ禍で出演が叶わなかったアーティスト達も改めて登場を予定。
華麗なN響サウンドが誘う世界の旅にご期待ください!



第121回 2022 10/8 [土] 会場:オーチャードホール

<北欧の秋>

指揮: サッシャ・ゲッツェル ピアノ: 牛田智大
ともはる
グリーグ: 組曲「ペール・ギュント」より「朝」
グリーグ: ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 ※
シベリウス: 交響曲 第2番 二長調 作品43



第122回 2023 1/8 [日] 会場:オーチャードホール

<ウィーンのニューイヤー>

指揮: 沼尻竜典
ソプラノ: 砂川涼子 テノール: 宮里直樹
ジューゼッペ・ウィーン、わが夢の街 ※
レハール: 喜歌劇「ほほえみの国」より「君はわが心のすべて」※ ほか



第123回 2023 3/11 [土] 会場:オーチャードホール

<イタリアの幻想>

指揮: ケリリン・ウィルソン ヴァイオリン: HIMARI
チャイコフスキー: イタリア奇想曲 作品45
ハガニーニ: ヴァイオリン協奏曲第1番 二長調 作品6 ※
プロコフィエフ: 組曲「ロメオとジュリエット」(抜粋)



第124回 2023 7/8 [土] 会場:横浜みなとみらいホール

<パリの芸術家たち>

指揮: 尾高忠明 ピアノ: 角野隼斗
ショパン: ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 作品11 ※
ストラヴィンスキー: バレエ組曲「火の鳥」(1945年版)
共催: 横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)



※情報は2022年5月時点のものです。やむを得ない事情により、出演者・曲目が変更となる可能性がございます。※印の曲はソリストと共に演奏いたします。

各1回券の発売に先駆けて、お席を確保できるシリーズ券がお得!

(各1回券が約20%OFF)

シリーズ券(税込) *()内は1回あたりの料金。	S¥28,000 (S¥7,000)	A¥23,200 (A¥5,800)	B¥19,200 (B¥4,800)	C¥12,000 (C¥3,000)
1回券(税込)	S¥8,800	A¥7,300	B¥5,700	C¥3,600

【シリーズ券販売期間】7/8(金)~8/14(日) ※Bunkamuraチケットセンターのみ取扱い

●Bunkamura チケットセンター 03-3477-9999

(オペレーター対応/10:00~17:00)

●オンラインチケット M.Y Bunkamura <https://mybun.jp/n-orchard23>

(登録・システム利用料無料/PC・スマホ共通/座席選択可能) ※1回券のみ取扱い

最新情報は
▼こちら



<お問い合わせ> Bunkamura 03-3477-3244 (10:00~18:00) 主催:Bunkamura

美しい時代へ——東急グループ

シベリウス

交響詩「フィンランディア」作品26

Sibelius / Finlandia, tone poem Op. 26

明電舎

presents

Jean
Sibelius



響

名曲コンサート2022

ブラームス

交響曲 第4番 小短調 作品98

Brahms / Symphony No.4 E Minor Op.98

指揮

沼尻竜典

Ryusuke Numajiri, conductor

ヴァイオリン

金川真弓*

Mayumi Kanagawa, violin*

Johannes
Brahms



ブルッフ

スコットランド幻想曲 作品46*

Bruch / Scottish Fantasy Op.46*

Max
Bruch

2022年9月5日[月] 7:00pm | サントリーホール

■ 発売開始：5月19日[木] 11:00 am

■ N響定期会員先行発売：5月17日[火] 11:00 am

■ 料金 (税込)

一般	ユースチケット(25歳以下)
SS ¥8,500	SS ¥6,000
S ¥6,500	S ¥5,000
A ¥5,000	A ¥3,500
B ¥3,500	B ¥2,500
C ¥2,500	C ¥1,500

※定期会員は一般料金から10%割引

■ 前売所

- WEBチケットN響：https://ticket.nhks.or.jp (手数料無料)
- N響ガイド：03-5793-8161
- サントリーホール チケットセンター：0570-55-0017
suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ：pia.jp/t/nhks/
- e+(イープラス)：eplus.jp/nhks/
- ローソンチケット：l-tike.com/nhks/

[お問い合わせ]

N響ガイド 03-5793-8161

(営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください)

※定期会員割引・先行発売は、WEBチケットN響、N響ガイドのみの取り扱いとなります。 ※ユースチケットはN響ガイドに電話でお申し込みください。
※感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要となります(N響ホームページをご覧ください)。 ※車いす席についてはN響ガイドに
お問い合わせください。 ※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。 ※チケットのご購入、ご来場の際は、N響ホームページに
掲載の「感染症予防対策についてのご案内」(右記QRコードのリンク先)を必ずお読みください。 ※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる
場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合のぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。 ※未就学児のご入場はお断りしています。



特別協賛：



株式会社 明電舎

主催：NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO



夏だ！ 祭りだ！！

N響ほっとコンサート

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

みんなNHKホールにあつまろう



2022年7月31日(日) 3:30pm (開場 2:30pm)

NHKホール(東京・渋谷)

チケット発売中

一般：S¥5,200 A¥4,200 B¥3,000 C¥1,500
 25歳以下：S¥4,000 A¥3,000 B¥2,000 C¥1,000
 小・中学生：S¥2,000 A¥1,500 B¥1,000 C¥500(税込)

(定期会員は、S・A・B各席の一般料金から10%割引)

- ※25歳以下(ユースチケット)はN響ガイドにお電話でお申し込みください。
- ※感染予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)。
- ※定期会員割引・先行販売はWEBチケットN響、N響ガイドのみの取り扱いとなります。
- ※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。
- ※N響ガイドでの申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
- ※「小・中学生」のチケットはすべての前売所でご購入いただけます。
- ※小学生は、保護者の方と一緒にお越しください。
- ※未就学児のご入場はお断りしています。
- ※今回のN響ほっとコンサートで「楽器体験工房」はございません。

◎WEBチケットN響 <https://ticket.nhkso.or.jp> (手数料無料)

◎N響ガイド 03-5793-8161

◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

◎e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso

◎ローンチケット l-tike.com/nhkso

※2時間前程度の公演となります(休憩20分あり)

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※チケットのご購入・ご来場の際には、N響ホームページに掲載の「感染症予防対策についてのご案内」(下記URLおよび右記リンク先)を必ずお読みください。

www.nhkso.or.jp/news/20200710_2.html



ワグナー：

歌劇「ローエングリン」—第3幕への前奏曲

林光：

オーケストラのための童話「セロ弾きのゴーシュ」
チェロ独奏：辻本 玲 (N響首席チェロ奏者) 語り・うた：三宅理恵 (宮沢賢治 原作)

ジュニア・ソリスト 募集

マロさん、N響といっしょに演奏しよう /

バッハ：2つのヴァイオリンのための協奏曲
—ニ短調— 第1楽章
ヴァイオリン独奏：ジュニア・ソリスト & 篠崎史紀 (N響第1コンサートマスター、通称マロさん)

ラヴェル：ボレロ



Shingo Yamaguchi

指揮：

下野 竜也



ヴァイオリン独奏：

篠崎 史紀

(通称マロさん)



チェロ独奏：

辻本 玲



語り・うた：

三宅 理恵

ジュニア・ソリスト募集

マロさん、N響といっしょに演奏するジュニア・ソリストを募集
ジュニア・ソリストはオーディションで決定します。

詳しくはN響ホームページ、
公式Twitterをチェック!!

主催：NHK/NHK交響楽団

「N響ほっとコンサート」
公式Twitterアカウント オープン!

「N響ほっとコンサート」の情報を発信します
N響、出演者や曲目などの詳細をお知らせします



NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響 「夏」

2022 東京公演

NHK Symphony Orchestra, Tokyo
Summer Concert 2022

主催：NHK / NHK交響楽団 協賛：岩谷産業株式会社

ふたりの作曲家が
再起をかけて生み出した
至高の名曲

指揮

尾高 忠明

Tadaaki Otake, conductor

©Martin Richardson

ラフマニノフ

ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

Rakhmaninov / Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18

チャイコフスキー

交響曲 第4番 ヘ短調 作品36

Tchaikovsky / Symphony No. 4 F Minor Op. 36

2022年 7月15日(金) 7:00pm

NHKホール

Friday, July 15, 2022 7:00p.m. NHK Hall



ピアノ

小曾根 真

Makoto Ozono, piano

©Kazuyoshi Shimomura (AGENCE HRATA)

■ 発売開始

5月19日(木)11:00am

(N響定期会員先行発売：5月17日(火)11:00am)

■ 料金(税込) ※定期会員は一般料金から10%割引

[一般] S: ¥7,300 A: ¥5,300 B: ¥3,300 C: ¥2,100

[ユースチケット (25歳以下)] S: ¥5,200 A: ¥3,800 B: ¥2,350 C: ¥1,500

※ユースチケットはN響ガイドに電話でお申し込みください。感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要となります(N響ホームページをご覧ください)。

※定期会員割引・先行発売は、WEBチケットN響、N響ガイドのみの取り扱いとなります。

※いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

※チケットのご購入・ご来場の際には、N響ホームページに掲載の「感染症予防対策についてのご案内」(右記QRコードのリンク先)を必ずお読みください。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※未就学児のご入場はお断りしています。



お問い合わせ N響ガイド 03-5793-8161 (営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください) www.nhks.or.jp

水素で世界を動かせ。

Iwatani
岩谷産業株式会社

指揮：イラン・ヴォルコフ

Ilan Volkov, conductor

チェロ：オレン・シェヴリン

Oren Shevlin, cello

ヴァイオリン：ヴェロニカ・エーベルレ

Veronika Eberle, violin

ピアノ：フランソワ・フレデリック・ギイ

François-Frédéric Guy, piano

管弦楽：NHK交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

4人の作曲家が 希求する明日の世界

「Music Tomorrow」はN響が制定した作曲賞、尾高賞の受賞作を軸に、日本人作曲家への委嘱作品の初演、国外の動向を踏まえた海外作品の日本初演などで構成される。今年の尾高賞受賞作品は西村朗の《華開世界—オーケストラのための》(2020)と岸野末利加の《チェロとオーケストラのための「What the Thunder Said」/「雷神の言葉」》(2021)の2作品に決まった。日本人作曲家への委嘱作品は細川俊夫の《ヴァイオリン協奏曲「ゲネシス(生成)」》(2020)、そして海外作品の初演はフランスの作曲家トリストン・ミュライユにN響をはじめとする世界の音楽団体が共同委嘱した《嵐の目—ピアノとオーケストラのための幻想即興曲》(2021)である。

N響委嘱作品の西村作品が昨年の《Music Tomorrow 2021》で初演されたことはまた記憶に新しい。道元禅師の《華開世界起》に基づき、一輪の花が時間と空間を縫いながら世界全体を聞くという世界観を色彩豊かに描いていた。一方、岸野作品はドイツでの感染症によるパンデミックの経験とT.S. エリオットの詩集「荒地」に重なる。曲はその第5部「雷神の言葉」からのモチーフ(雷、水滴、雷など)に基づき、それらの断片を支えられながら崩壊に抗い、荒地を潤す希望の滴によって再生を希求する。初演者であるシェヴリンによる戦いに満ちたチェロは聴きものだろう。そして細川の協奏曲は今回の独奏者であるエーベルレの出産を祝って作曲された。生命の誕生と成長をヴァイオリン(人間)とオーケストラ(自然や世界)の関係性によって表現しており、途中対立を経て最後に共舞的な世界へいたる。海外作品のミュライユは音のスペクトル分析や音響合成などから独自の作風を確立した作曲家である。この協奏曲《嵐の目》が見据えている世界はどのようなものだろうか。ミュライユ作品のスペシャリストであるギイとオーケストラが奏でる渦巻く響きの真っ只中から明日への希望を見い出すことができるかもしれない。(三橋圭介・音楽評論家)

N響 MUSIC TOMORROW 2022

July 1 (Fri) 7:00pm
Otaka Award Ceremony / Pre-Concert Talk 6:30pm
Tokyo Opera City Concert Hall

2022年7月1日 金 7:00pm

尾高賞授賞式・プレトーク
6:30pm

東京オペラシティ コンサートホール

西村 朗 / 華開世界—オーケストラのための(2020) [第69回「尾高賞」受賞作品]
Nishimura / KAKAISEKAI for Orchestra (2020) [The 69th Otaka Award Work]

岸野末利加 / チェロとオーケストラのための「What the Thunder Said」/「雷神の言葉」(2021) [第69回「尾高賞」受賞作品・日本初演]
Kishino / "What the Thunder Said" for Cello and Orchestra (2021) [The 69th Otaka Award Work / Japan Premiere]

細川俊夫 / ヴァイオリン協奏曲「ゲネシス(生成)」(2020)

[NHK交響楽団 / パンパルコ・フィル / 香港シフォニエッタ / 広島交響楽団 / プラハ放送交響楽団 / グラフェネッグ音楽祭共同委嘱作品・日本初演]

Hosokawa / Violin Concerto "Genesis" [Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Philharmonisches Staatsorchester Hamburg, Hong Kong Sinfonietta, Hiroshima Symphony Orchestra, Prague Radio Symphony Orchestra, and Grafenegg Festival / Japan Premiere]

ミュライユ / 「嵐の目」—ピアノとオーケストラのための幻想即興曲(2021)

[NHK交響楽団 / フランス放送フィル / BBCラジオ3 / NDRエルプフィル共同委嘱作品・日本初演]

Murail / "L'œil du cyclone", fantasia-impremtu pour piano and orchestra

[Co-commission Work for NHK Symphony Orchestra, Orchestre Philharmonique de Radio France, BBC Radio 3 and NDR Elbphilharmonie Orchester / Japan Premiere]

発売開始 2022年5月19日 11:00am [定期会員先行発売: 2022年5月17日(火) 11:00am]

チケット料金(税込)

◎ 一般 | S: 3,500円 / A: 2,500円 / B: 1,500円

◎ WEBチケットN響 特別料金 | S: 3,000円 / A: 2,000円 / B: 1,000円

●車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください

●N響定期会員先行発売の取り扱いには、WEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります

●東京オペラシティArts友の会先行発売(6月18日(木) 10:00am)の取り扱いは東京オペラシティチケットセンターのみとなります

●東京オペラシティチケットセンターでの一般発売は5月20日(金) 10:00amより行います

●N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります

前売所

- WEBチケットN響: <https://ticket.nhkso.or.jp>
- N響ガイド: 03-5793-8161
- 東京オペラシティチケットセンター: 03-5353-9999
- チケットぴあ: pia.jp/t/nhkso
- e+(イープラス): eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット: l-tike.com/nhksoo

●約2時間超の公演となります(休憩20分あり)

●未就学児の入場はお断りしています

●チケットのご購入・ご来場の際には、N響ホームページに掲載の「感染症予防対策についてのご案内」(下記のURLのおよびQRコードのリンク先)を必ずお読みください






●やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません

主催: NHK / NHK交響楽団
共催: 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団
助成: 公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団 / 公益財団法人 ロームミュージックファンデーション / 公益財団法人 アフィニス文化財団



www.nhkso.or.jp/news/20200710_2.html

お問い合わせ: N響ガイド: 03-5793-8161
(営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください)

www.nhkso.or.jp | Follow us on     

脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国320万世帯への販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1^{*}

※国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・ハイピングを除く。2022年5月現在、自社調べ)

Iwatani
岩谷産業株式会社